
喘息診療の実態調査

—大分県内クリニックアンケート調査—

大分県地域医療支援センター

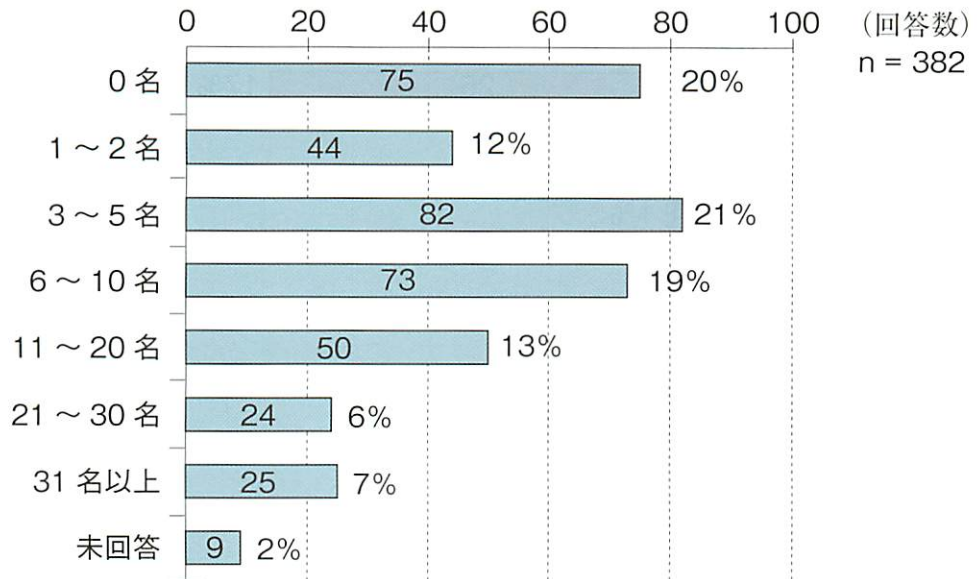
大分大学医学部地域医療学センター

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 目 次 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

【1】 喘息患者の月間来院数	1
【2】 喘息診療ガイドラインの参照	5
【3】 喘息診療の不十分な点	8
【4】 喘息診療専門医の存在	10
【5】 軽症の喘息患者の第1選択薬	12
【6】 喘息患者に対する他の医療機関への紹介率	23
【7】 喘息患者に対する吸入ステロイド薬の処方率	27

【1】貴院で診療されている喘息患者はひと月あたり何人くらいでしょうか？

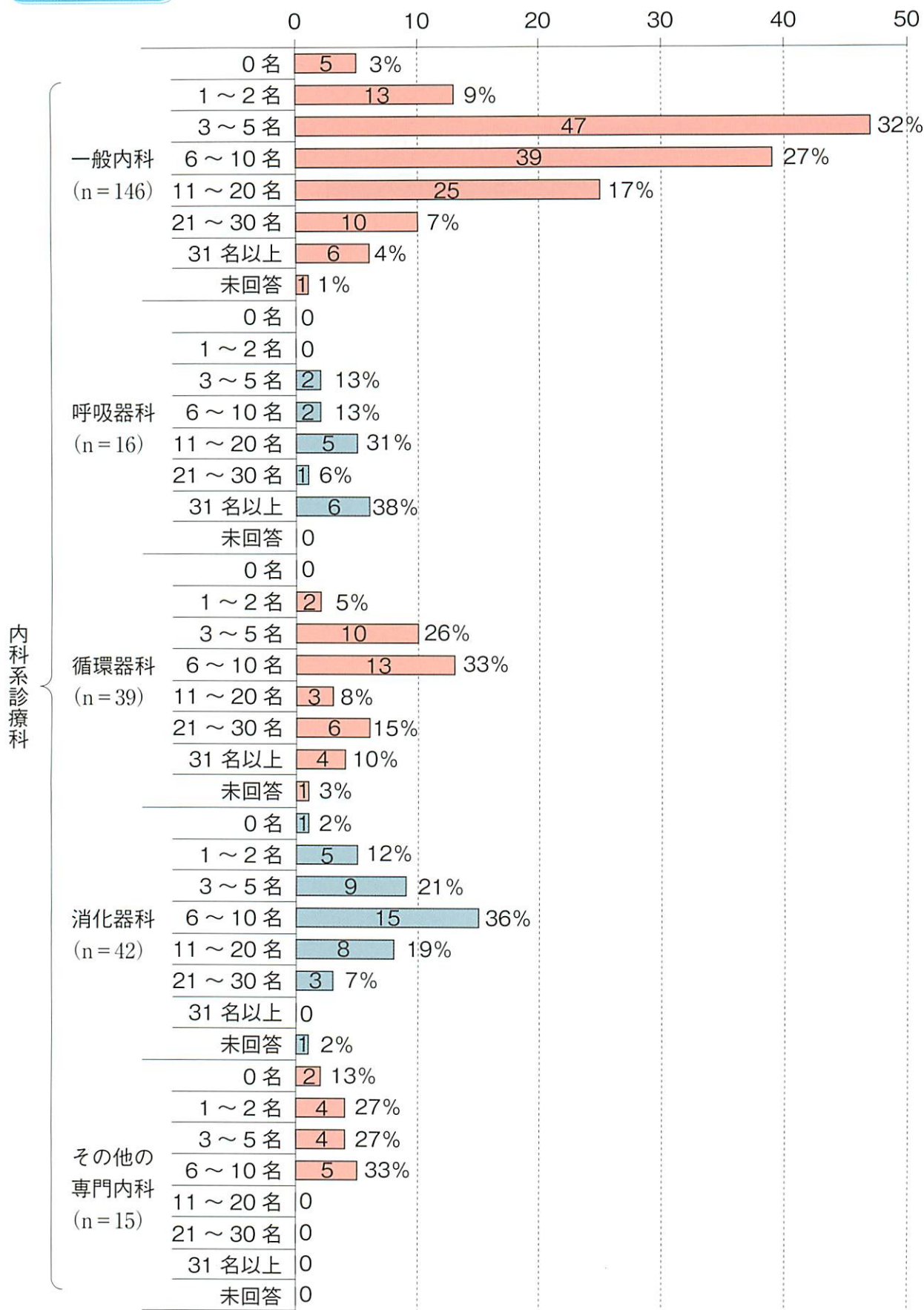
(1) 全体



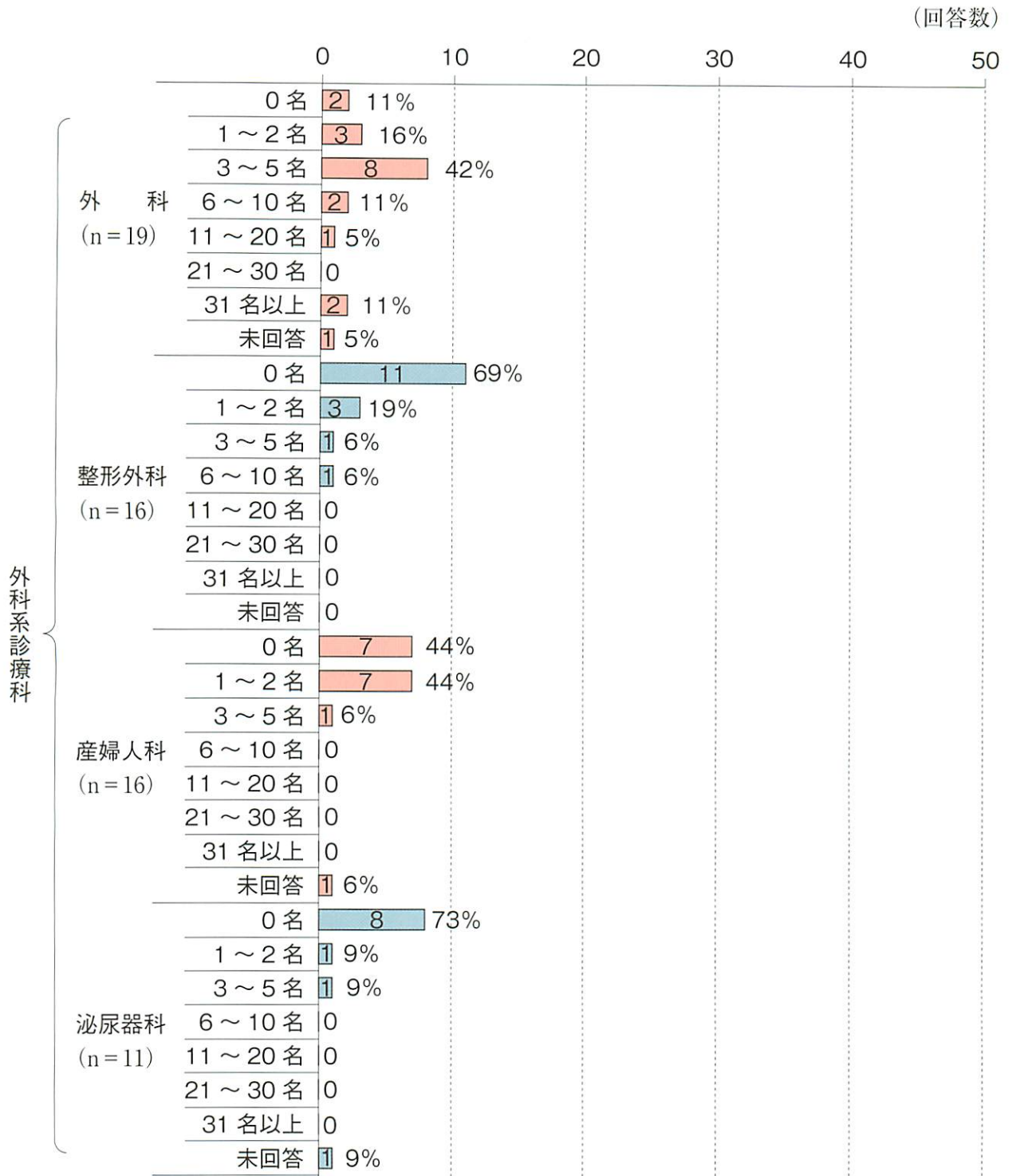
【1】
喘息患者の月間
来院数

(2) 診療科別

(回答数)



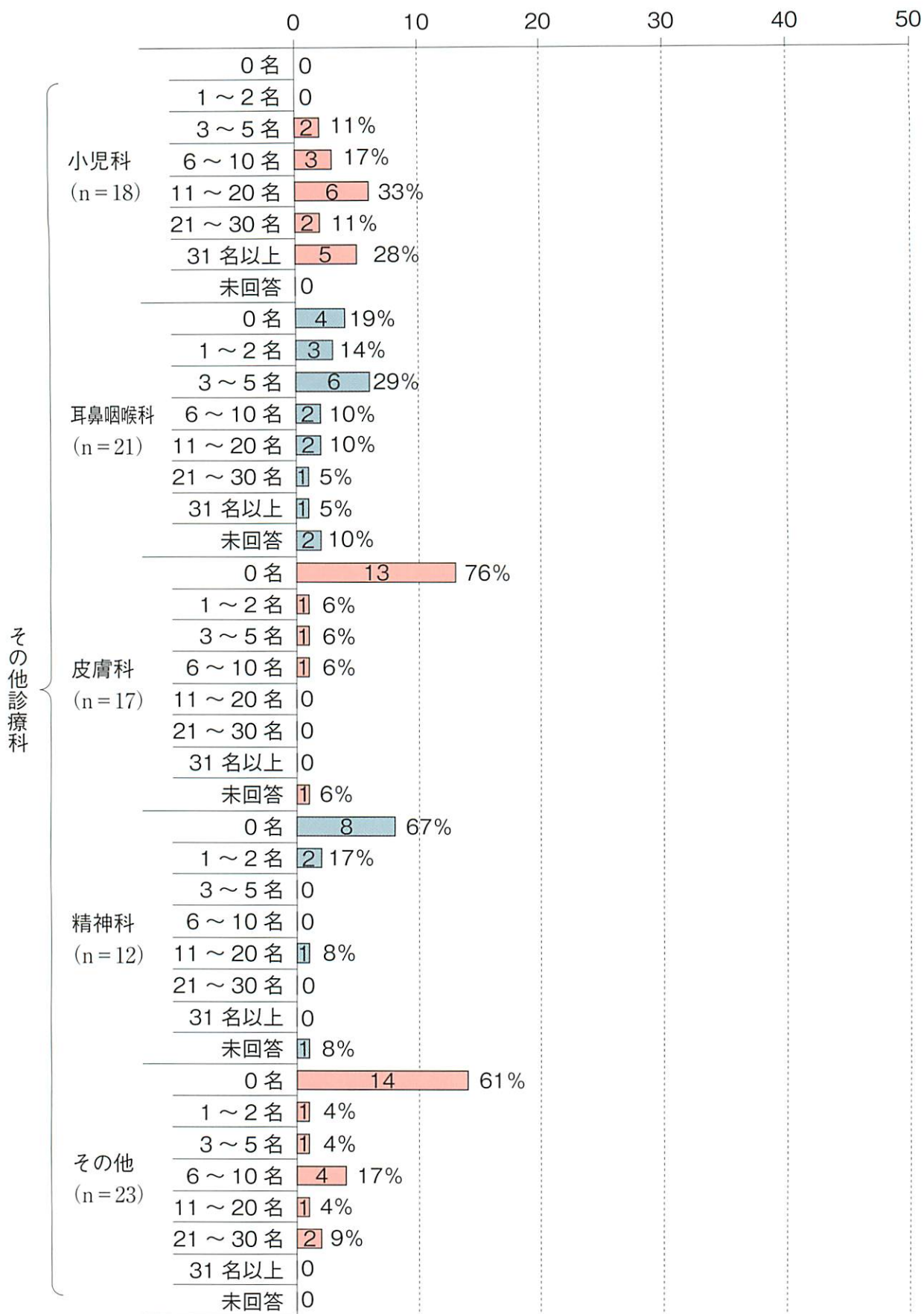
注) 比率はそれぞれの診療科内の数値
回答者は複数の診療科を選択



注) 比率はそれぞれの診療科内の数値
回答者は複数の診療科を選択

【1】
喘息患者の月間
来院数

(回答数)

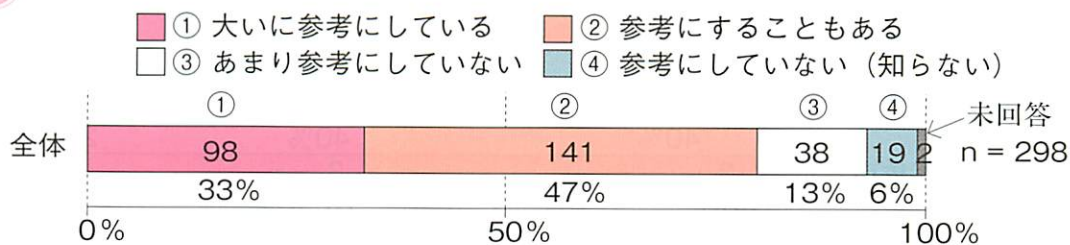


注) 比率はそれぞれの診療科内の数値
回答者は複数の診療科を選択

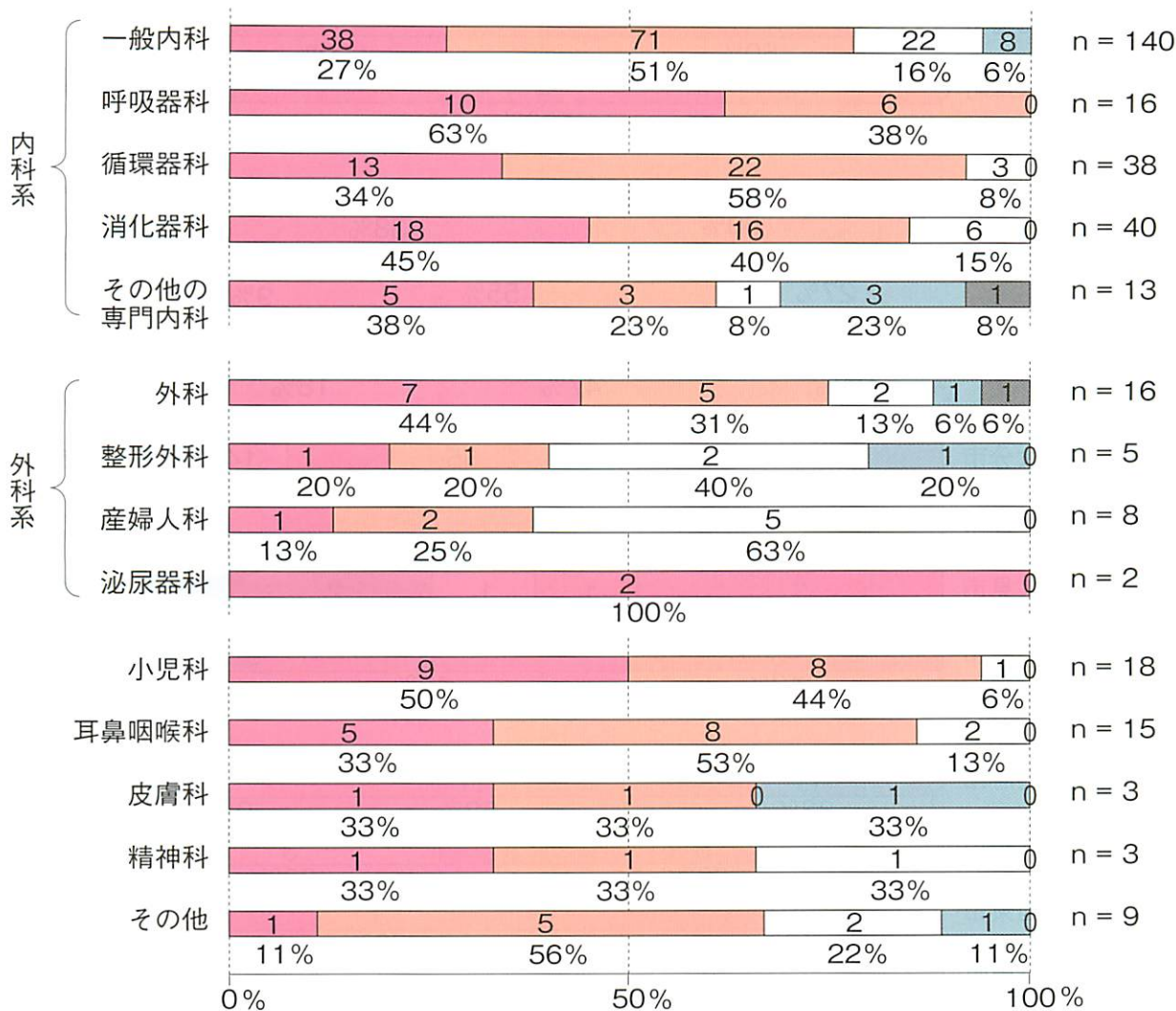
【2】喘息治療に関して「喘息診療ガイドライン」を参考にしていますか？

(喘息患者の月間来院数1名以上が対象)

(1) 全体



(2) 診療科別



(3) 内科系・外科系グループ別



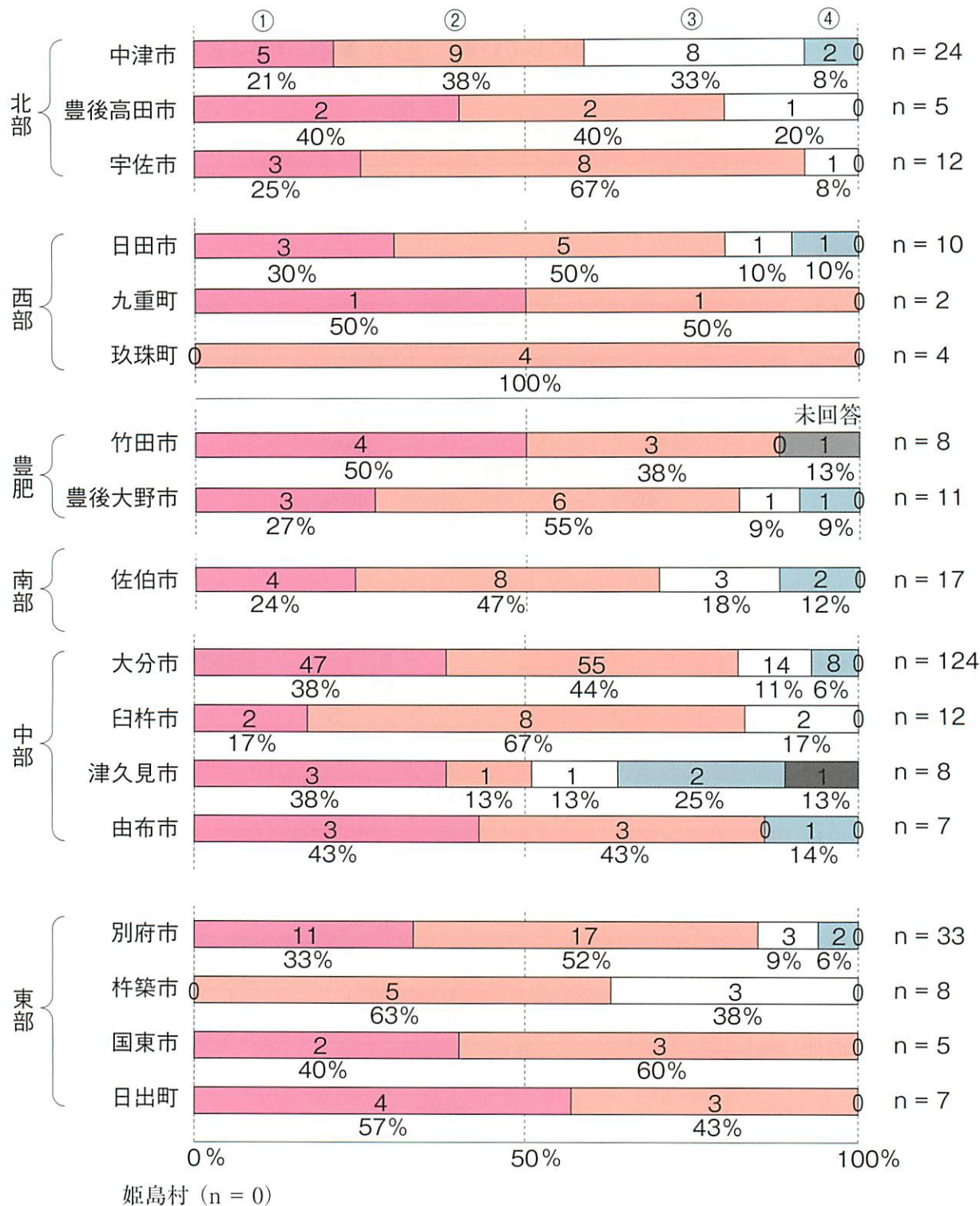
p = 0.0061 (Pearson's chi-square test)

(注) 内科系と外科系診療科両方を選択した回答 (n = 6) は除外

【2】喘息診療ガイドラインの参照

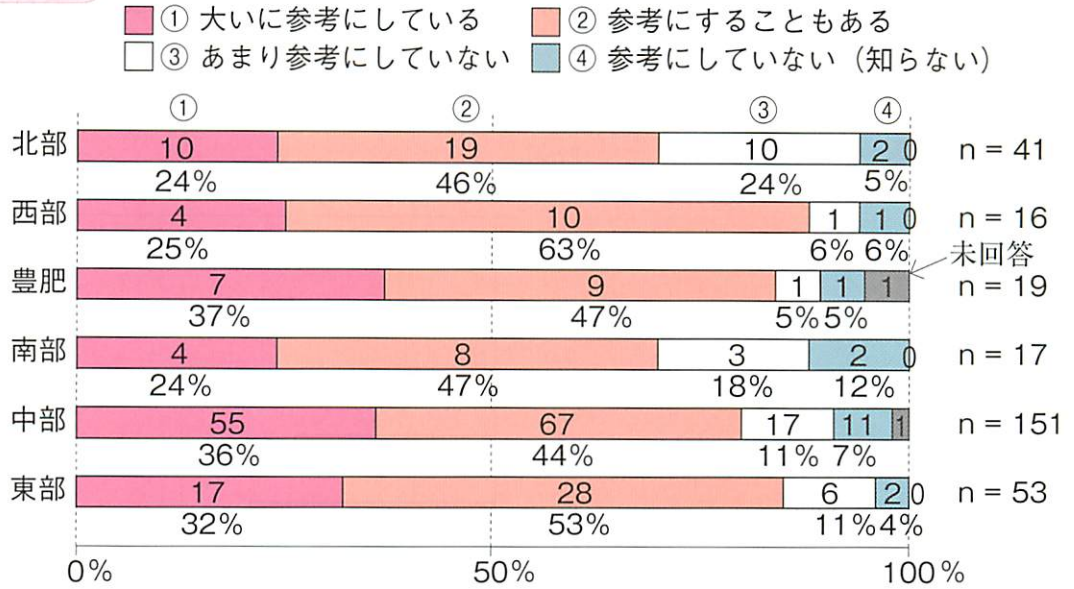
(4) 所在地別

① 大いに参考になっている ② 参考にすることもある
 ③ あまり参考にしていない ④ 参考にしていない (知らない)



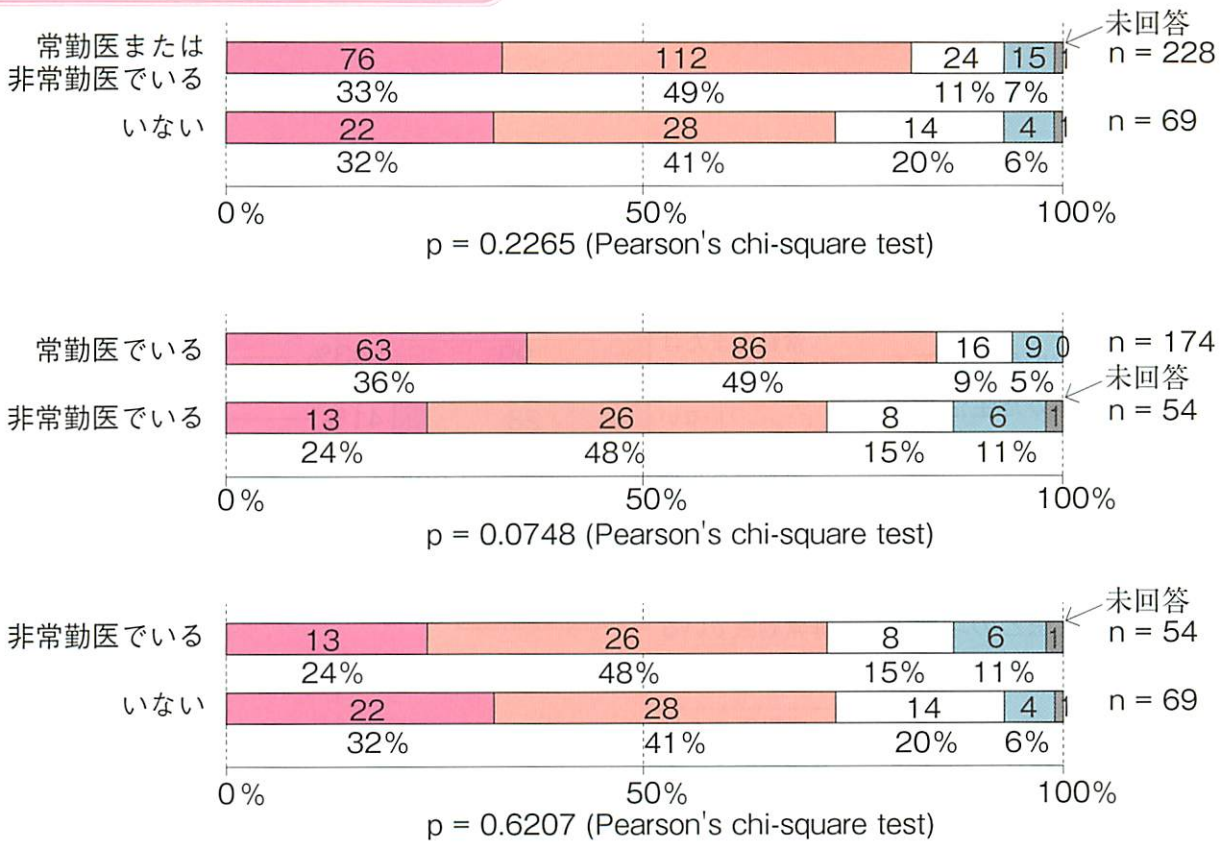
【2】喘息診療ガイドラインの参照

(5) 二次医療圏別



【2】喘息診療ガイドラインの参照

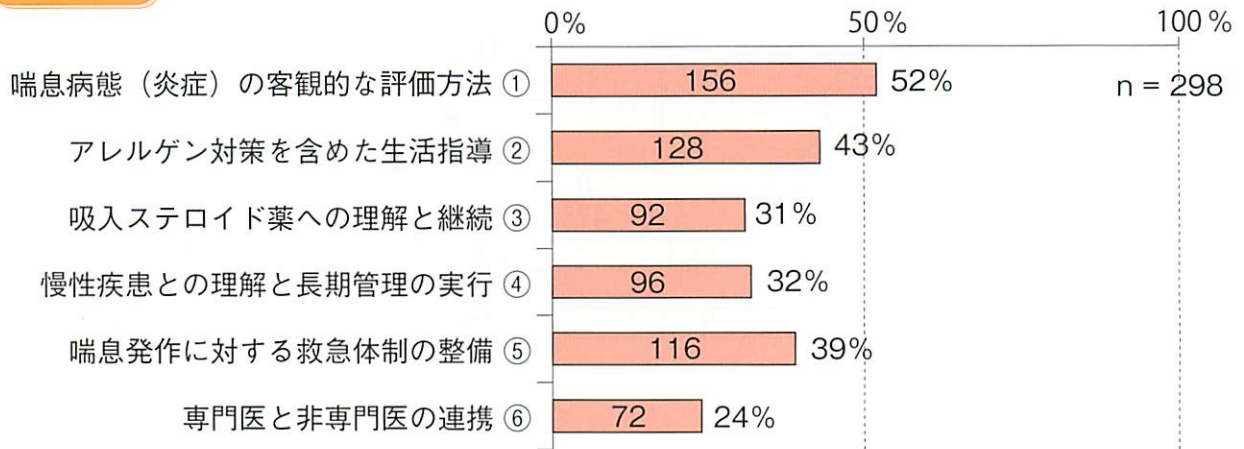
(6) 喘息診療専門医の常勤・非常勤別



【3】 貴クリニックで喘息診療を行ううえで「不十分である」と感じておられることはありますか？（複数回答）

（喘息患者の月間来院数1名以上が対象）

(1) 全体

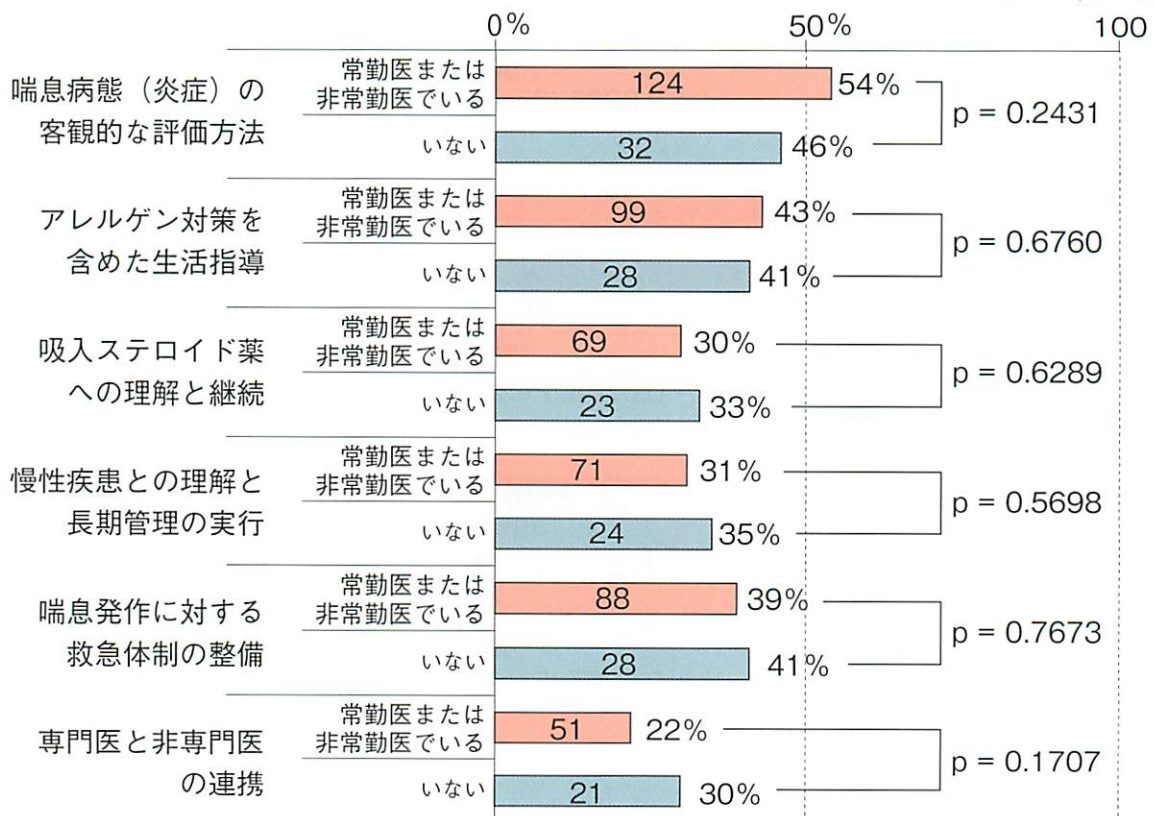


(2) 喘息診療専門医の常勤・非常勤別

A. 常勤医または非常勤医でいる vs. いない

常勤医または非常勤医でいる (n = 228)

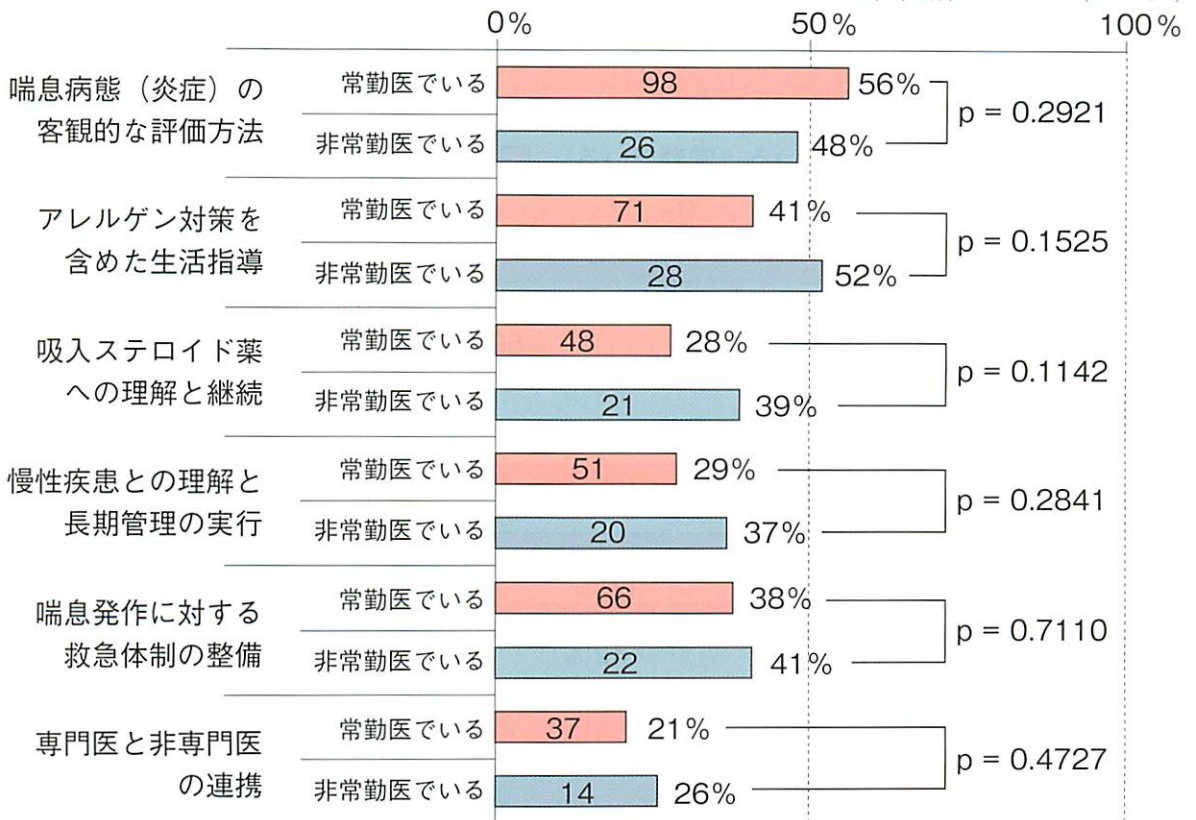
いない (n = 69)



【3】 喘息診療の不十分な点

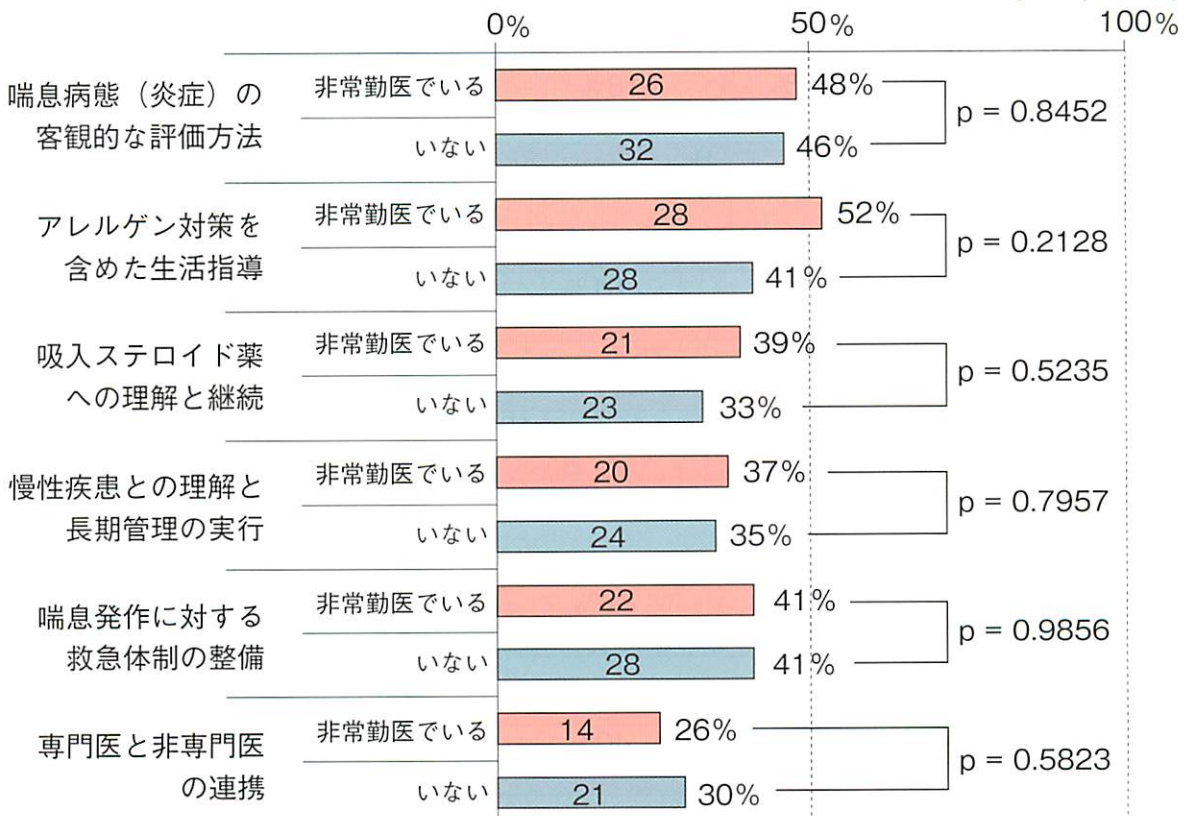
B. 常勤医でいる vs. 非常勤医でいる

常勤医でいる (n = 174)
非常勤医でいる (n = 54)



C. 非常勤医でいる vs. いない

非常勤医でいる (n = 54)
いない (n = 69)

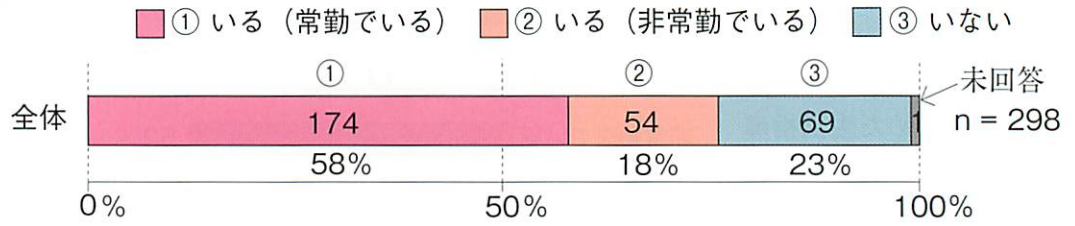


【3】喘息診療の不十分な点

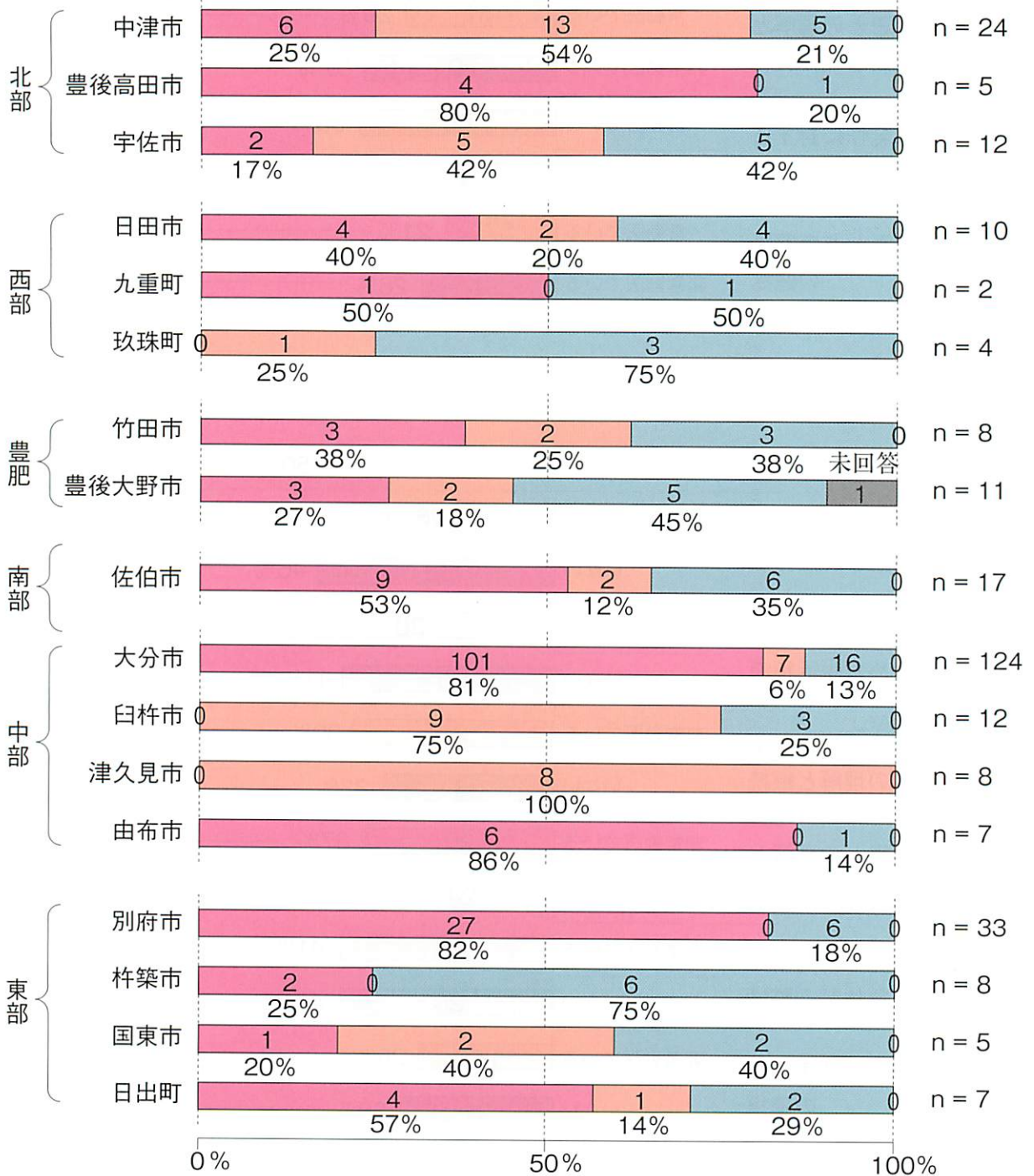
【4】 貴診療所のある市町村の地域中核病院に、喘息の診断・治療を相談したり、依頼したりできる医師がいますか？

(喘息患者の月間来院数1名以上が対象)

(1) 全体

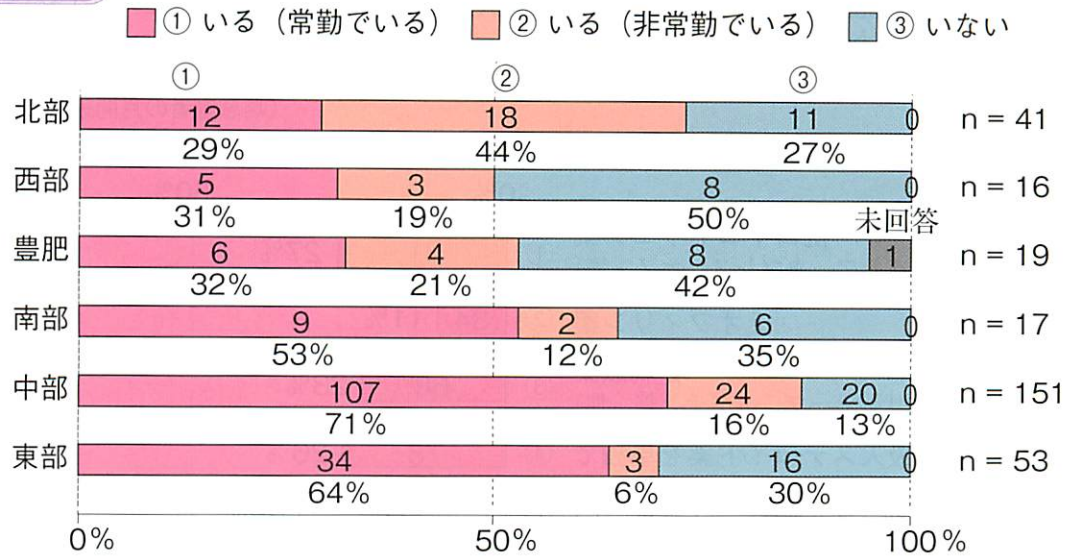


(2) 所在地別



【4】 喘息診療専門医の存在

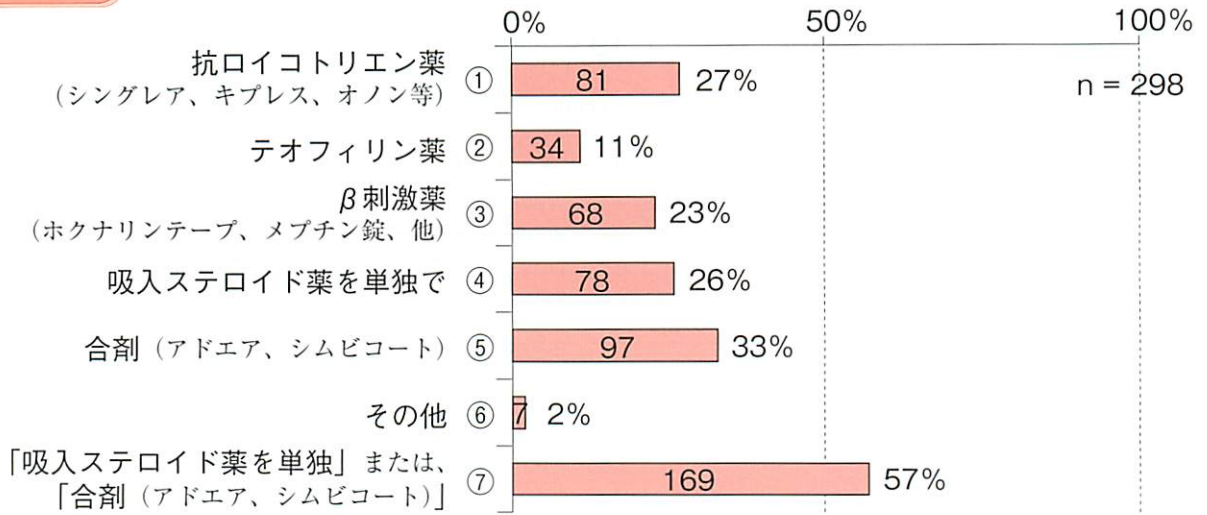
(3) 二次医療圏別



【5】 軽症の喘息患者に対して第1選択薬として先生がご使用なさっているものは何ですか？（複数回答）

（喘息患者の月間来院数1名以上が対象）

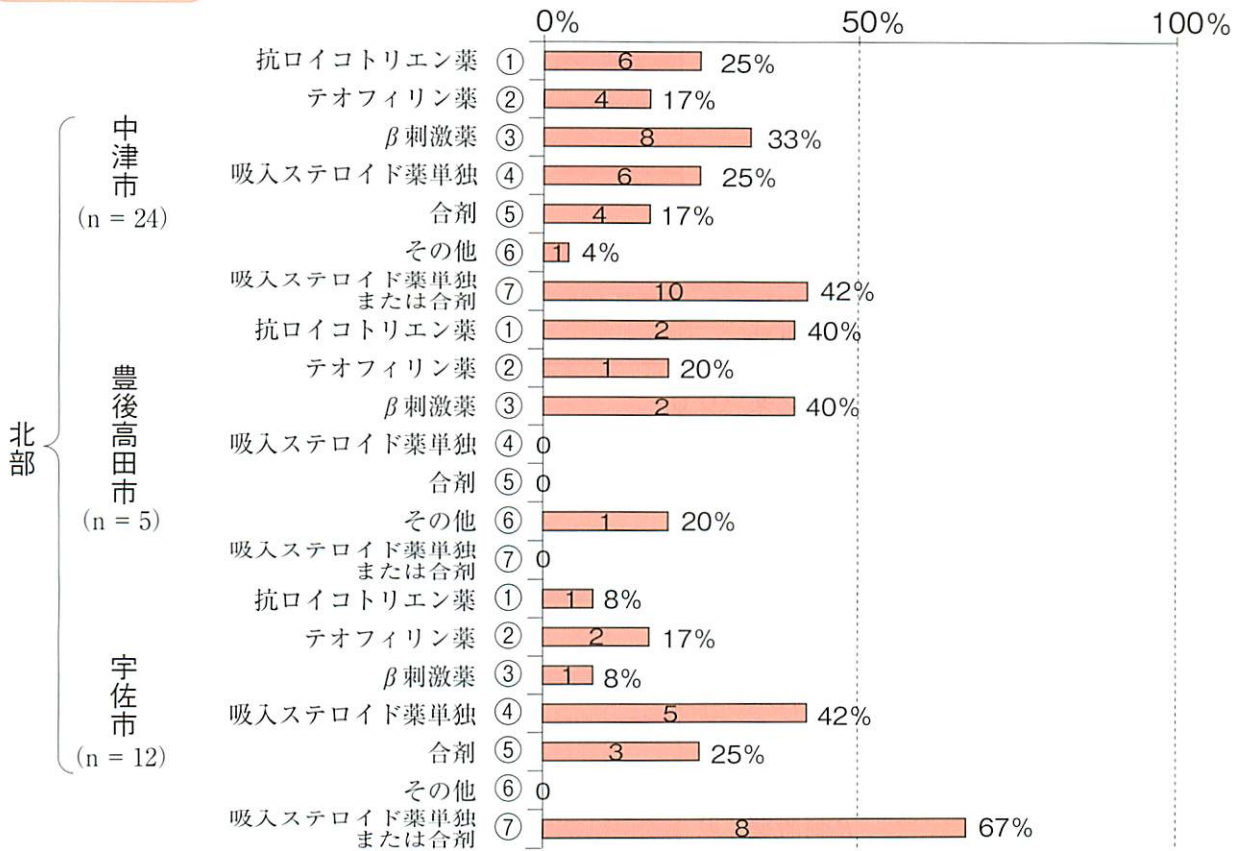
(1) 全体



☆「その他」の内容	回答数
漢方薬	3
アゼラスチン	1
ネオフィリン	1
吸入β刺激薬	1

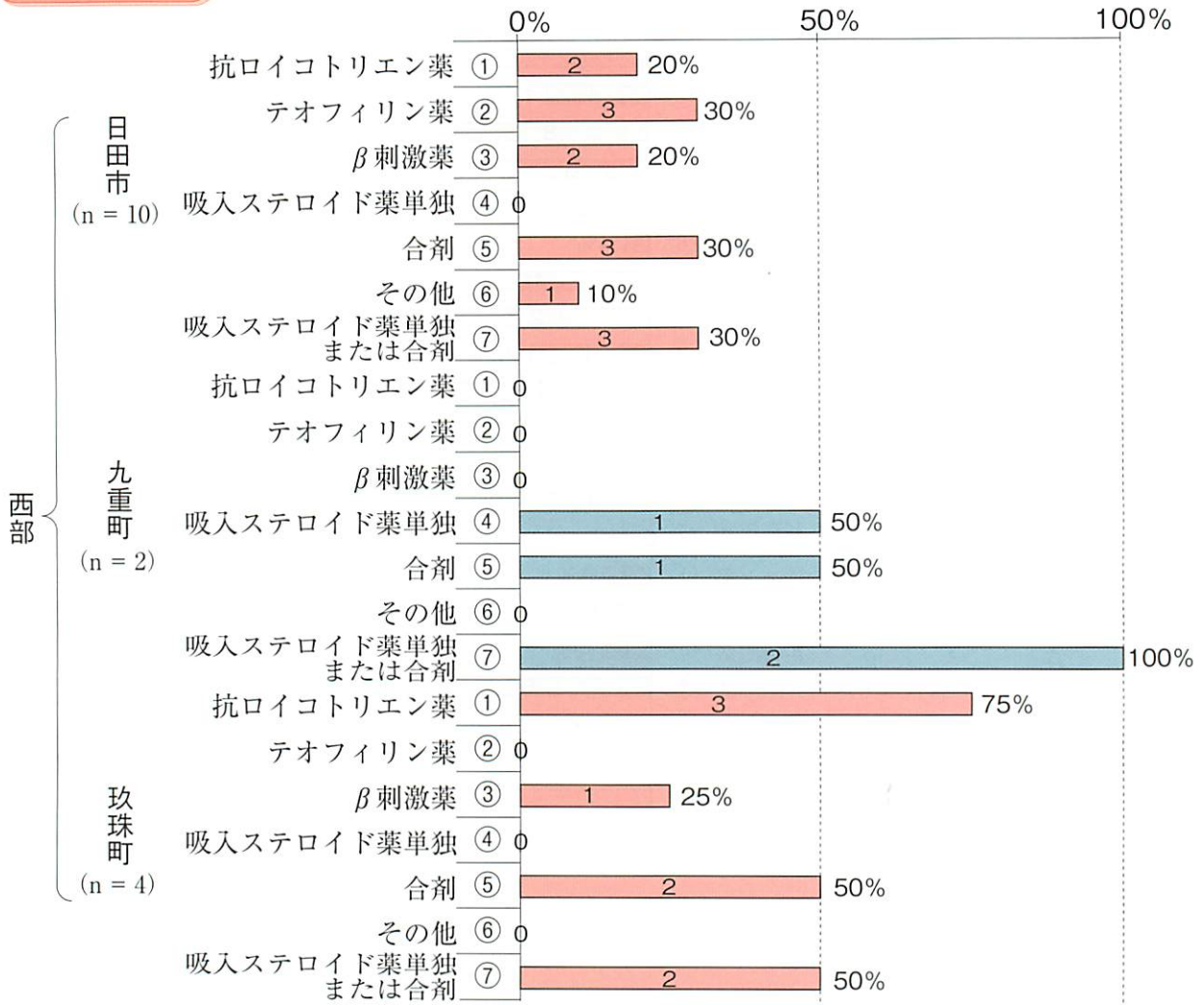
【5】 軽症の喘息患者の第1選択薬

(2) 所在地別



(注) 比率はそれぞれの所在地内の数値

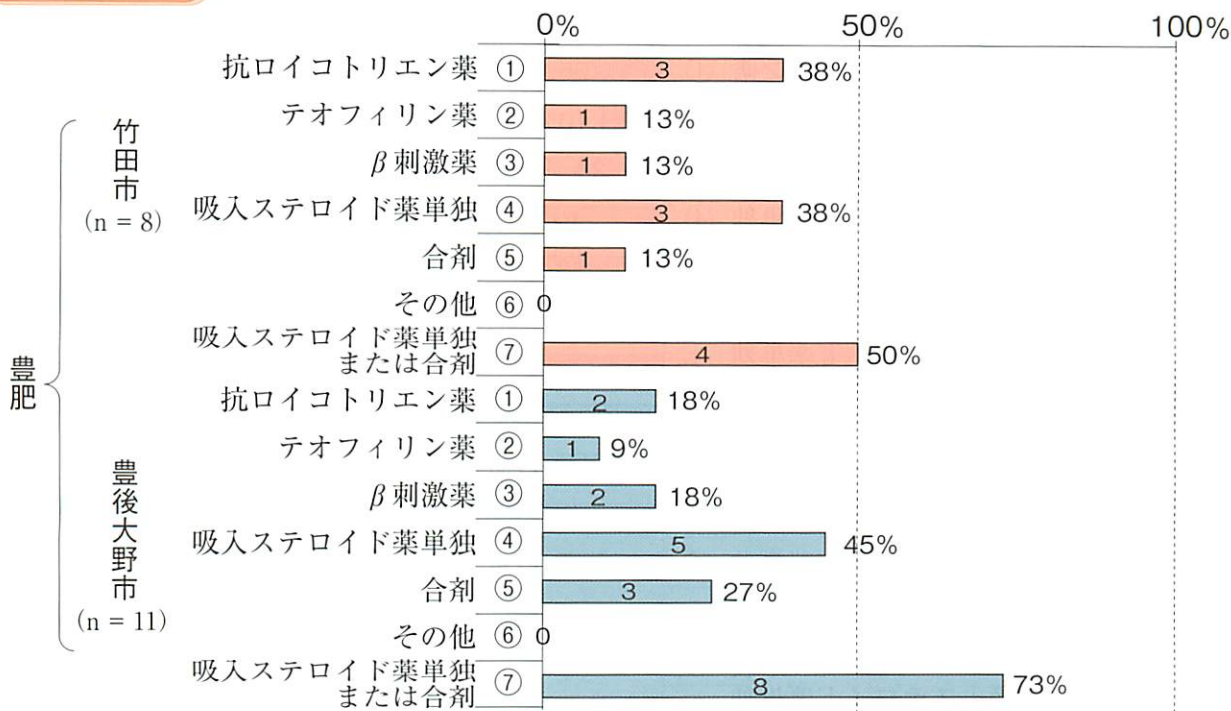
(2) 所在地別



(注) 比率はそれぞれの所在地内の数値

【5】
軽症の喘息患者
の第1選択薬

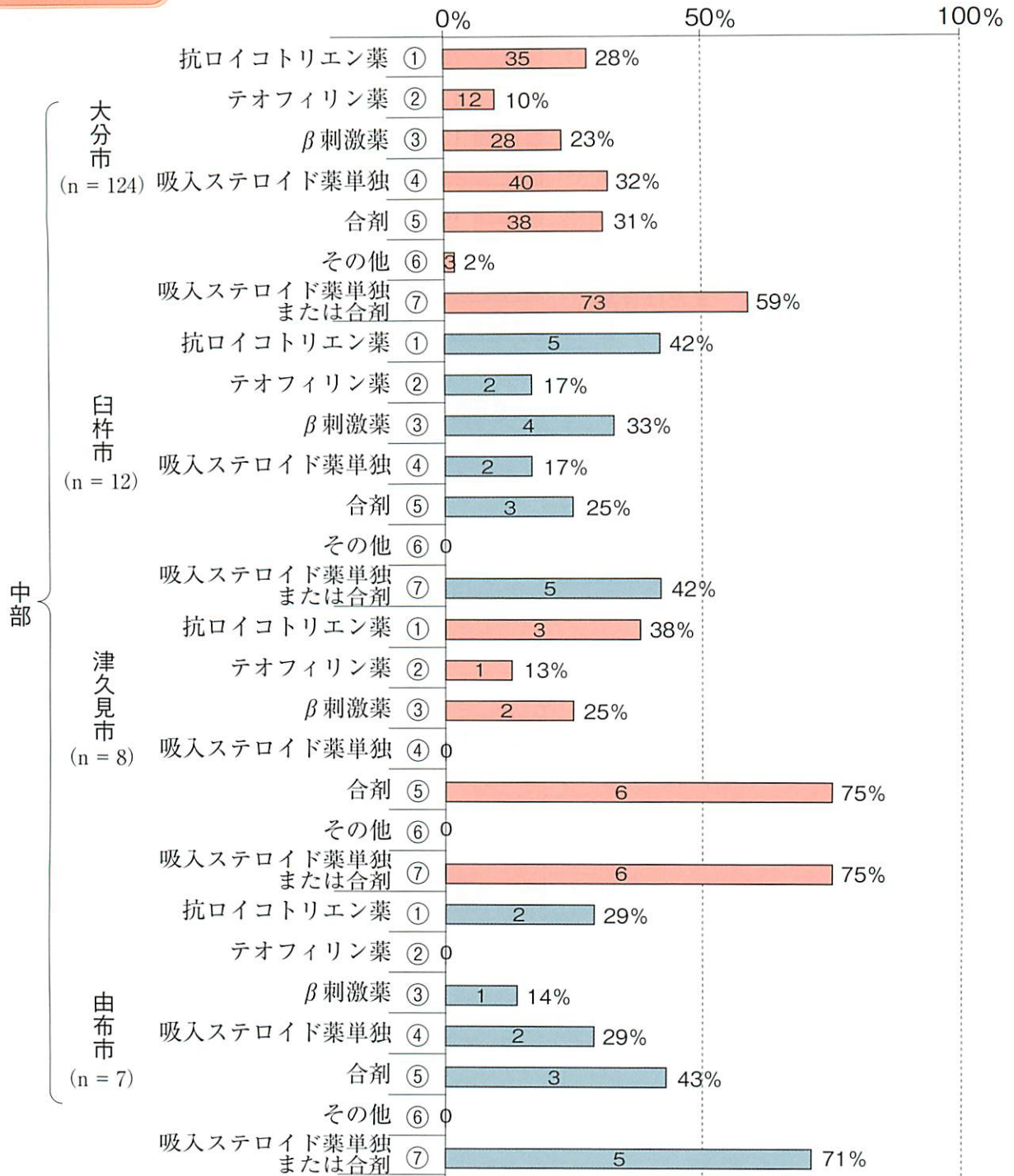
(2) 所在地別



(注) 比率はそれぞれの所在地内の数値

【5】
軽症の喘息患者
の第1選択薬

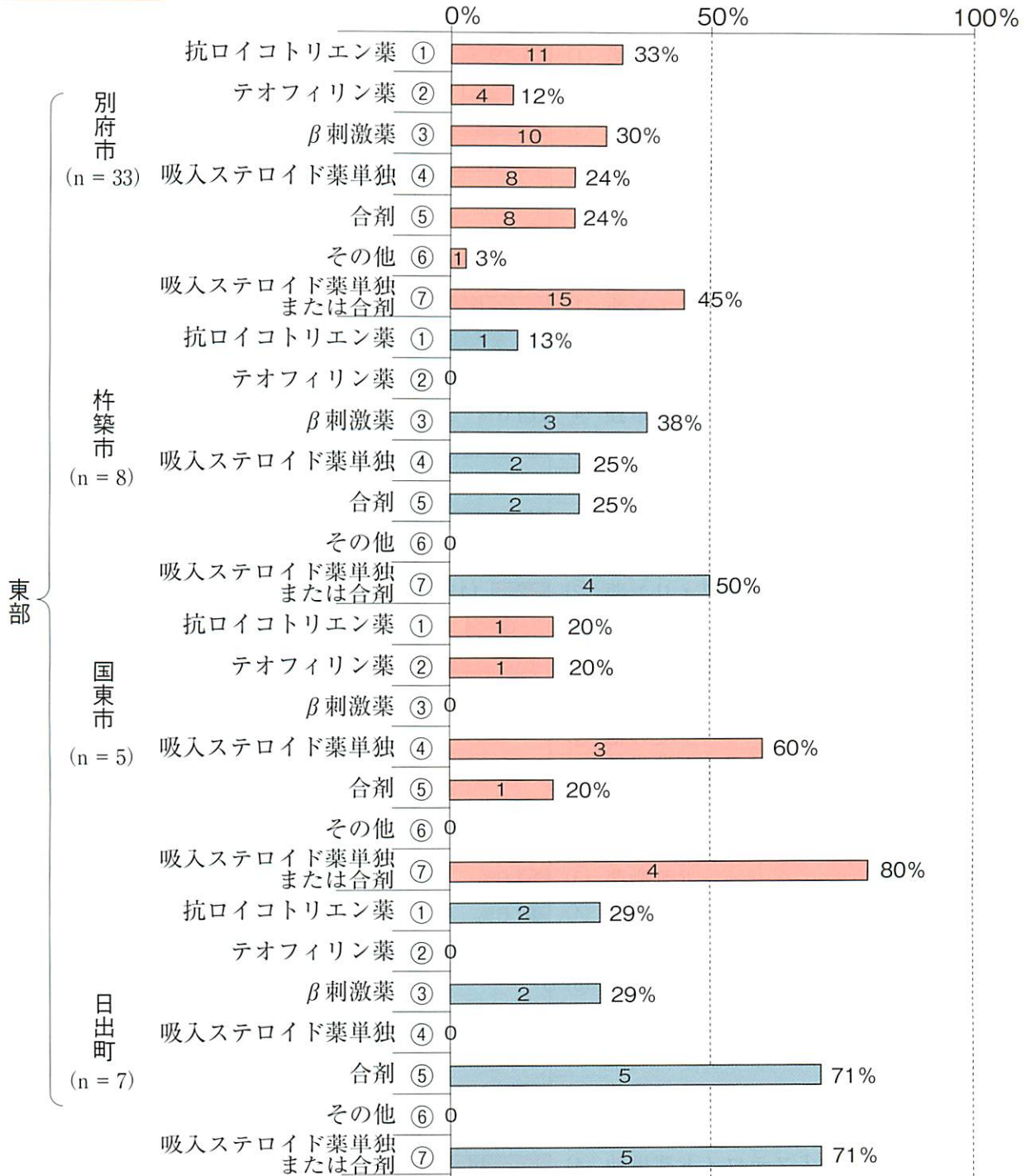
(2) 所在地別



(注) 比率はそれぞれの所在地内の数値

【5】軽症の喘息患者の第1選択薬

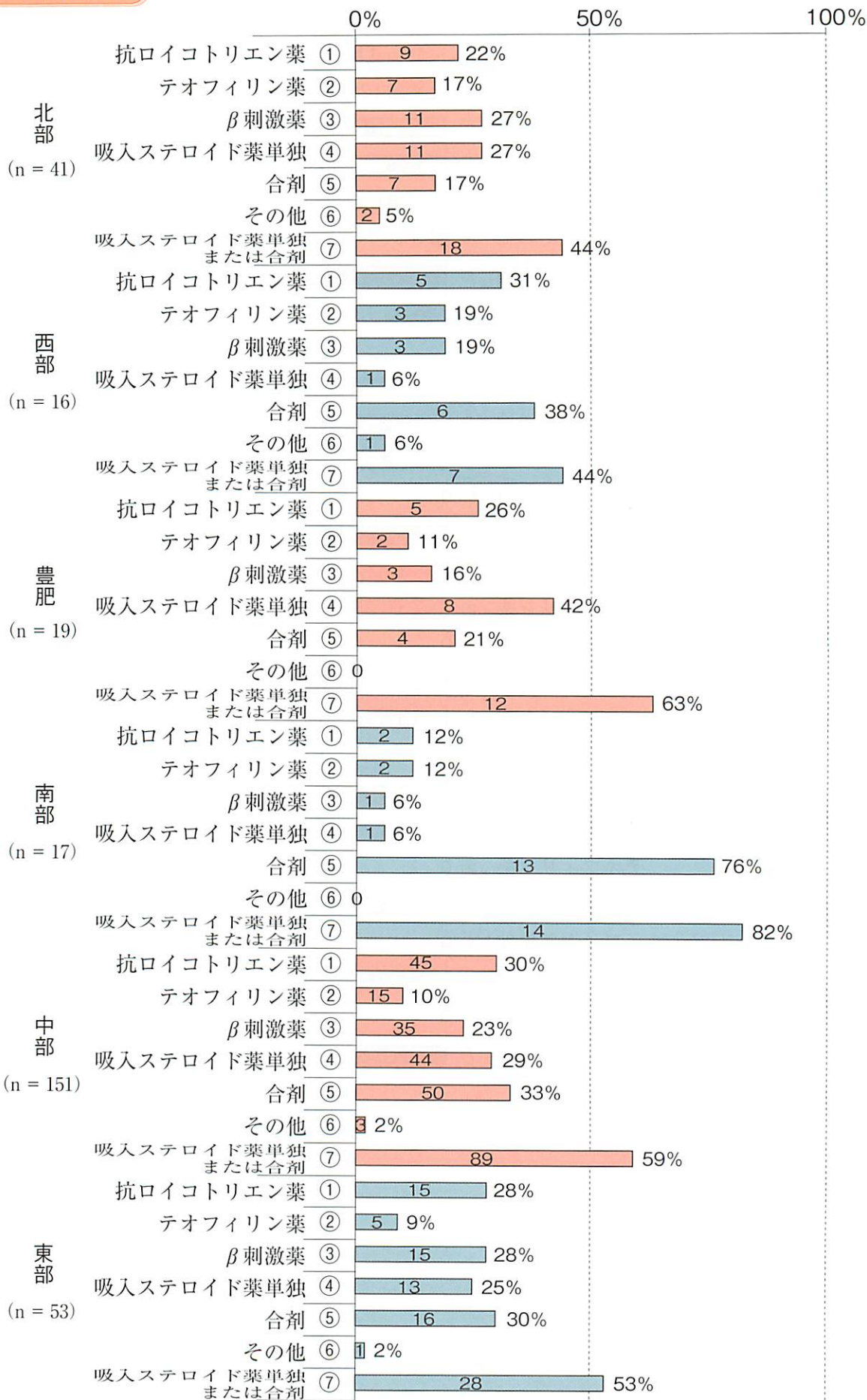
(2) 所在地別



(注) 比率はそれぞれの所在地内の数値

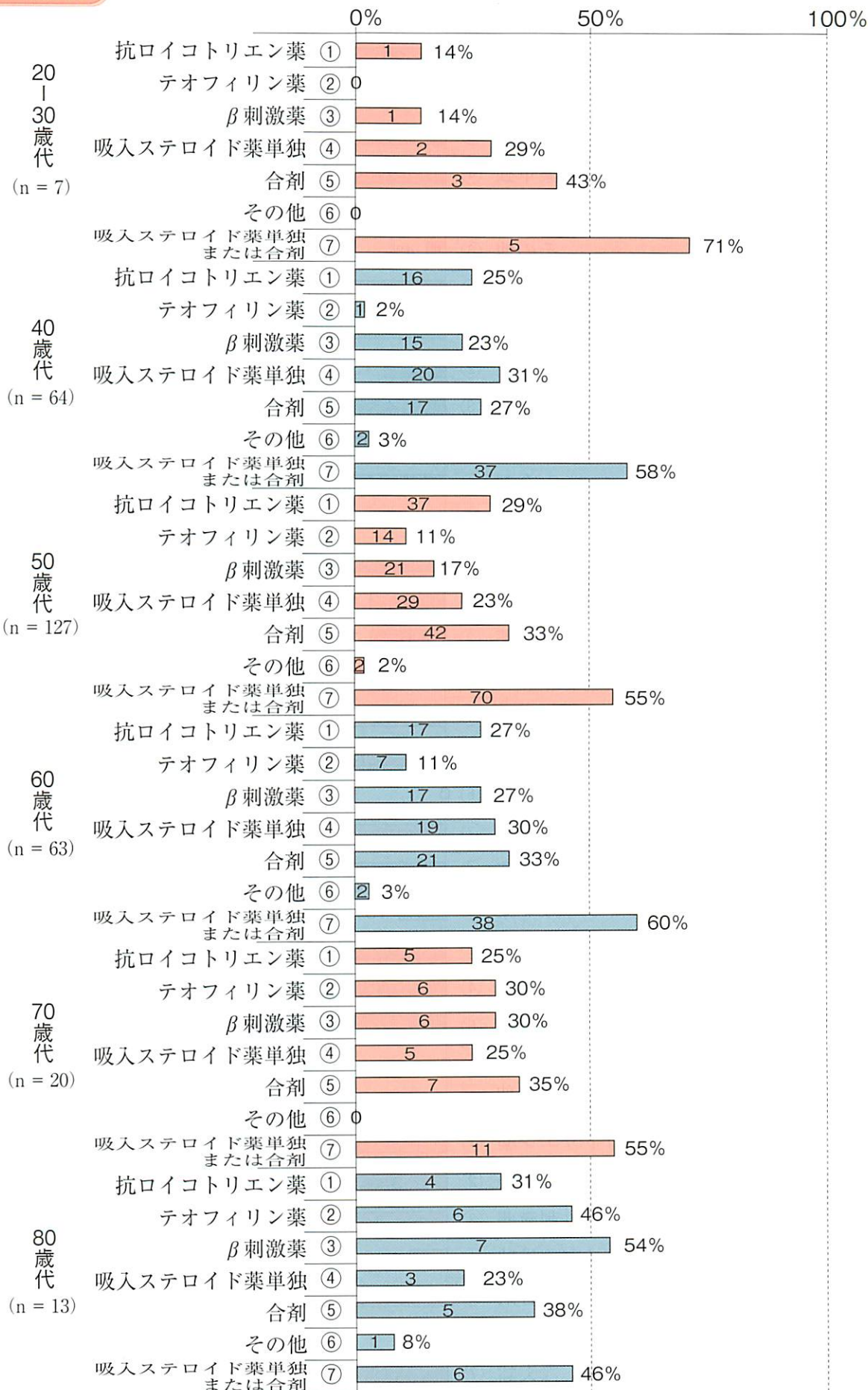
【5】
軽症の喘息患者
の第1選択薬

(3) 二次医療圏別



(注) 比率はそれぞれの医療圏内の数値

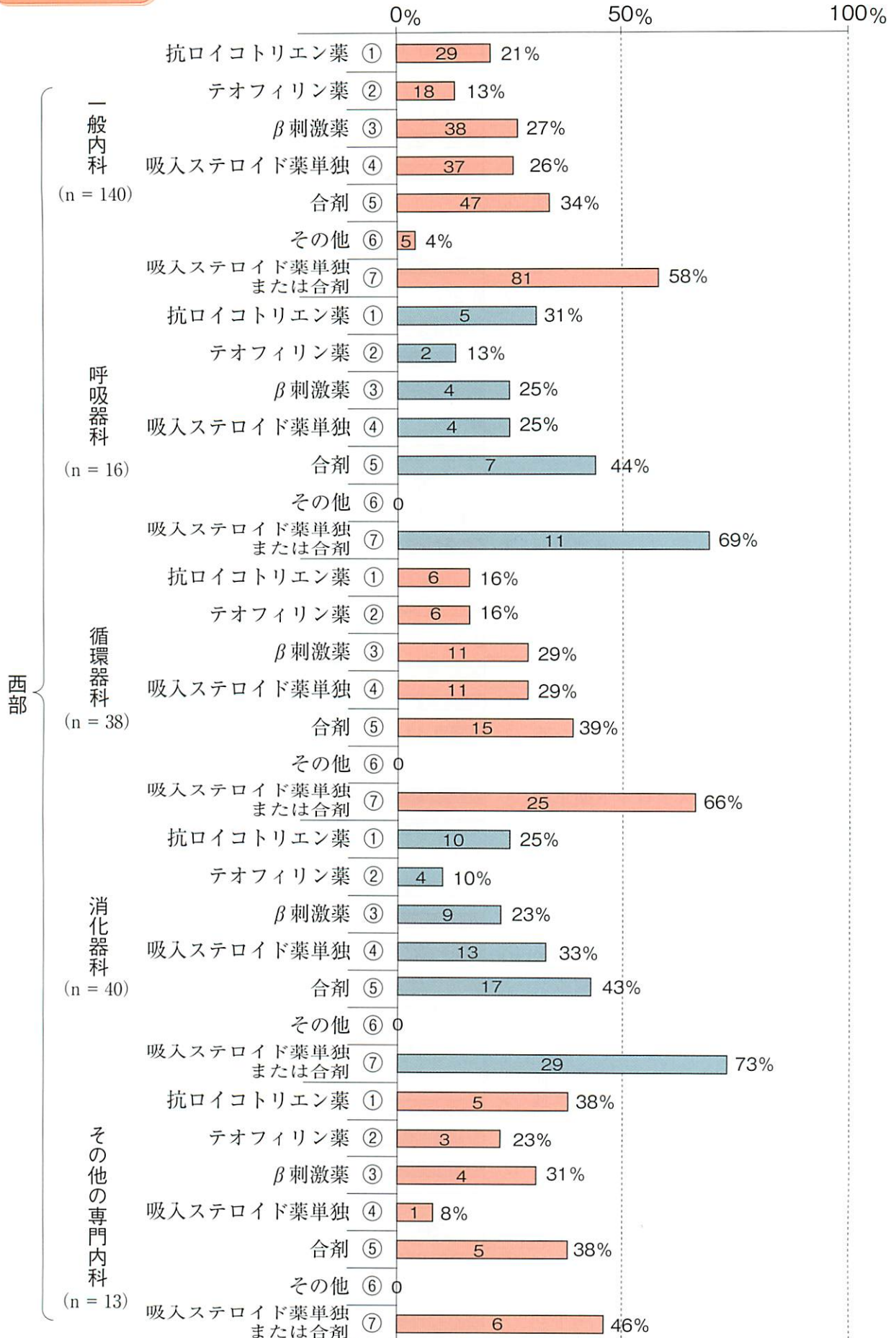
(4) 年齢層別



(注) 比率はそれぞれの年代層内の数値

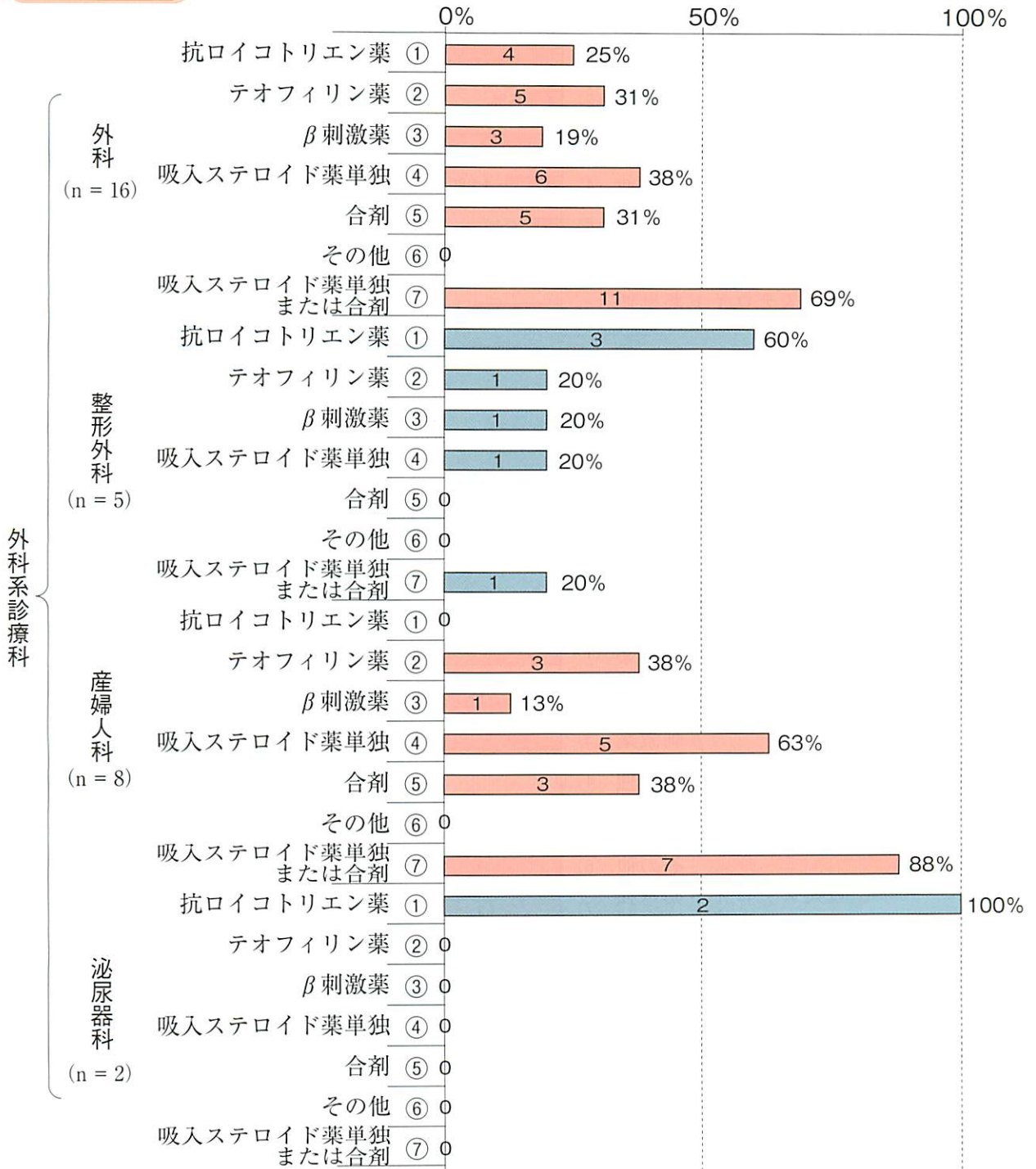
【5】
軽症の喘息患者
の第1選択薬

(5) 診療科別



(注) 比率はそれぞれの診療科内の数値

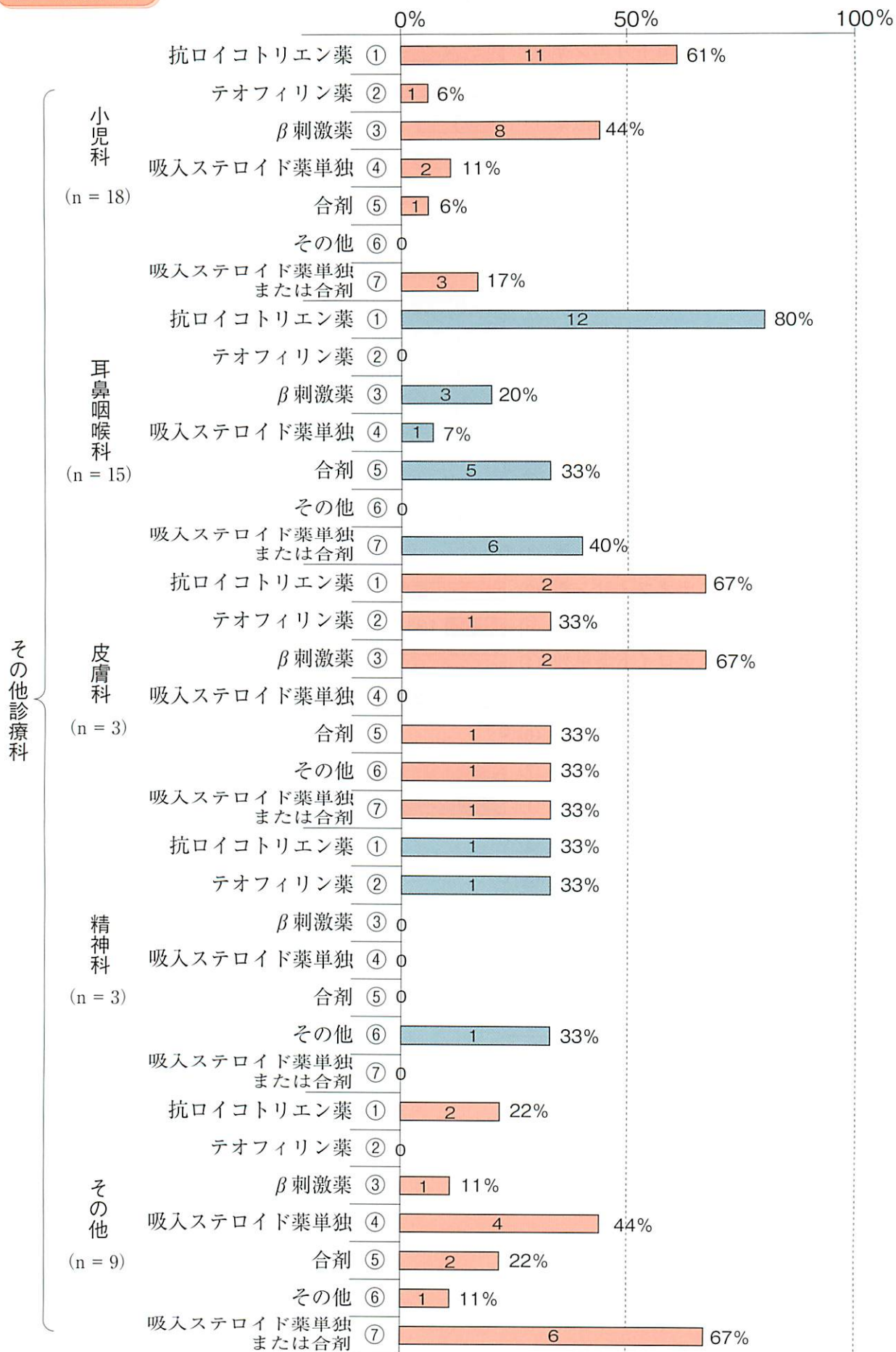
(5) 診療科別



(注) 比率はそれぞれの診療科内の数値

【5】
軽症の喘息患者
の第1選択薬

(5) 診療科別

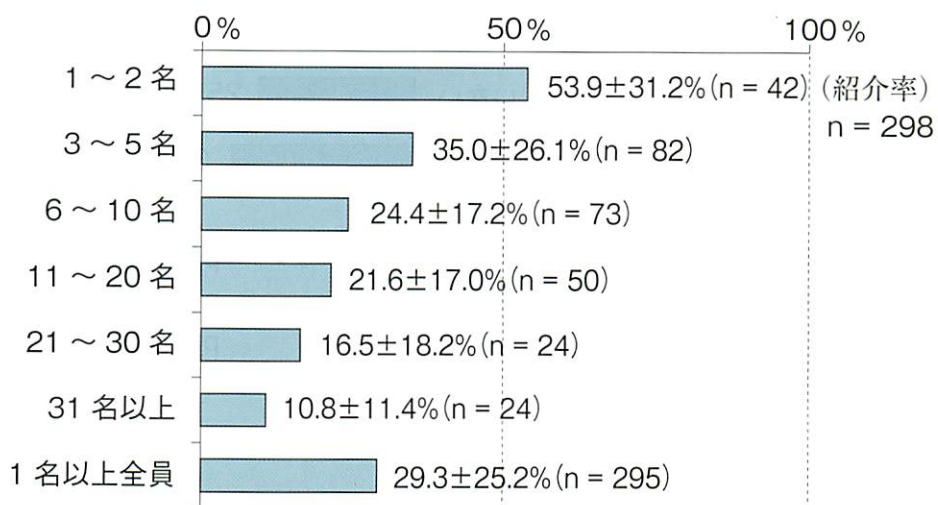


(注) 比率はそれぞれの診療科内の数値

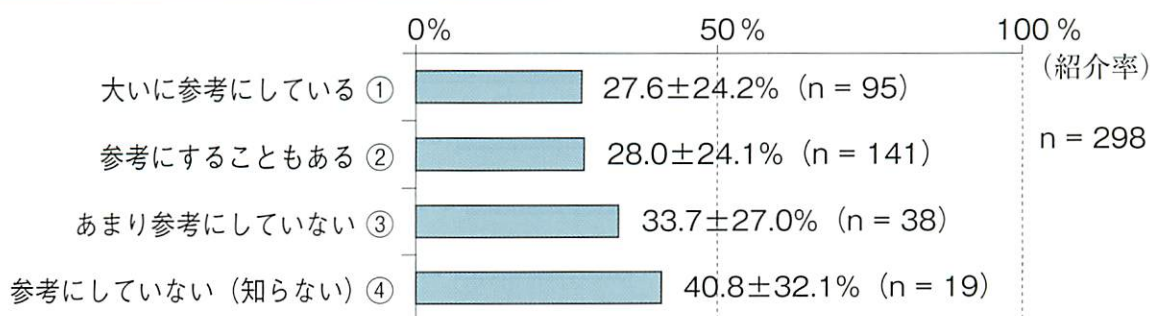
【6】喘息患者を中核病院など他の医療機関へ紹介することができますか？

(喘息患者の月間来院数1名以上が対象)

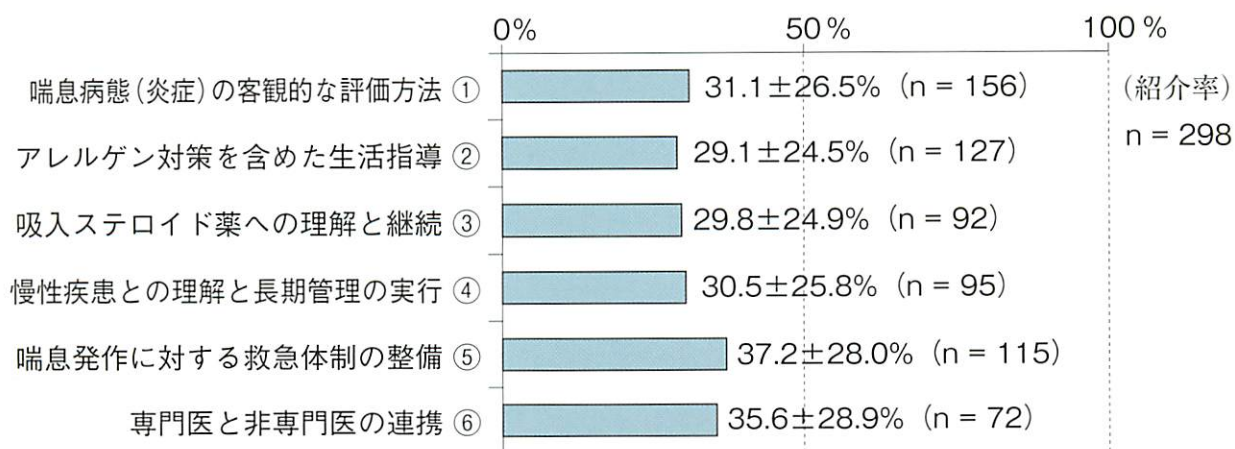
(1) 喘息患者の月間来院数別 (問1分類)



(2) 喘息診療ガイドラインの参照別 (問2分類)

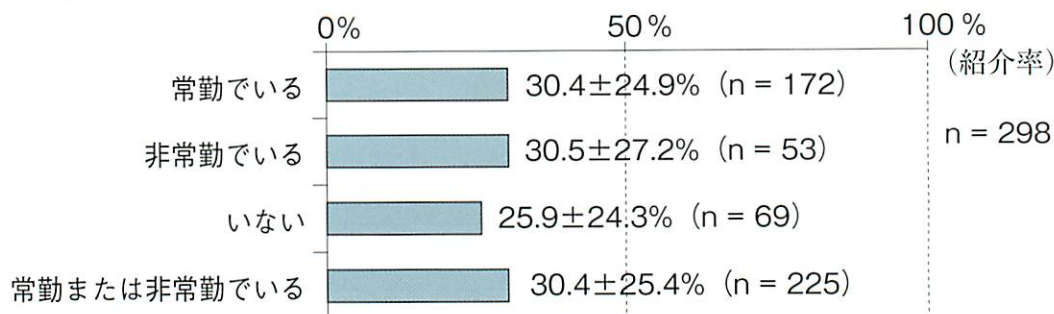


(3) 喘息診療の不十分な点別 (問3分類)



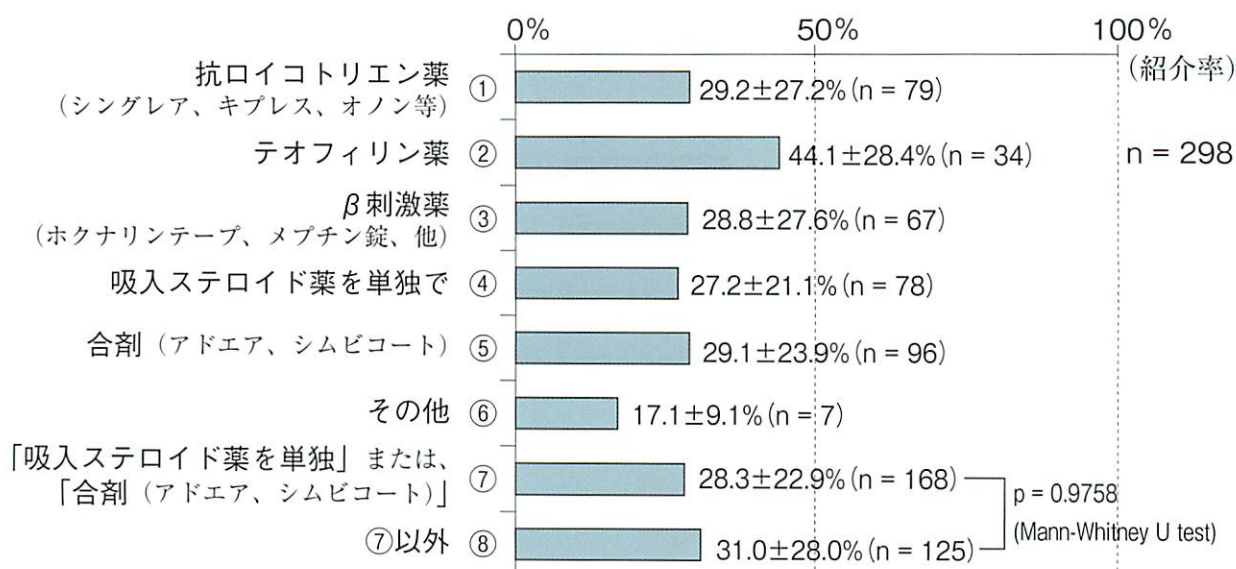
【6】喘息患者に対する他の医療機関への紹介率

(4) 喘息診療専門医の存在別 (問4分類)



- A. 常勤医または非常勤医でいる vs. いない p = 0.1025 (Mann-Whitney U test)
- B. 常勤医でいる vs. 非常勤医でいる p = 0.7144 (Mann-Whitney U test)
- C. 非常勤医でいる vs. いない p = 0.2858 (Mann-Whitney U test)

(5) 軽症の喘息患者の第1選択薬別 (問5分類)



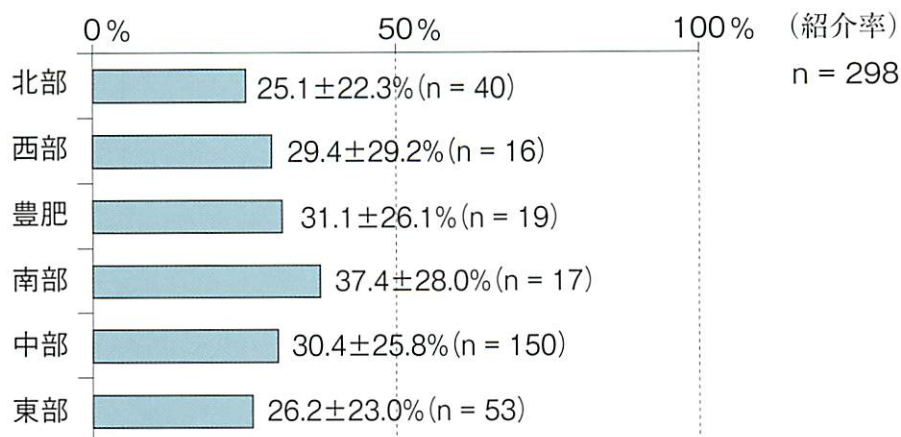
【6】

喘息患者に対する他の医療機関への紹介率

(6) 所在地別 (問8分類)

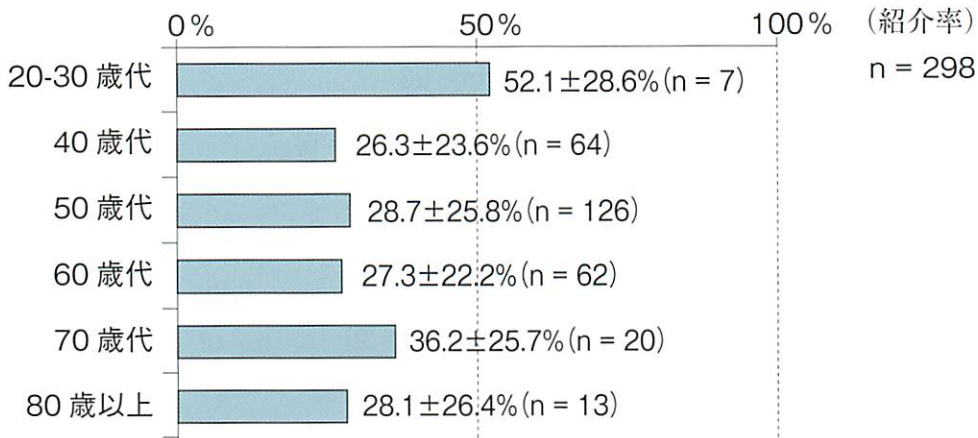


(7) 二次医療圏別

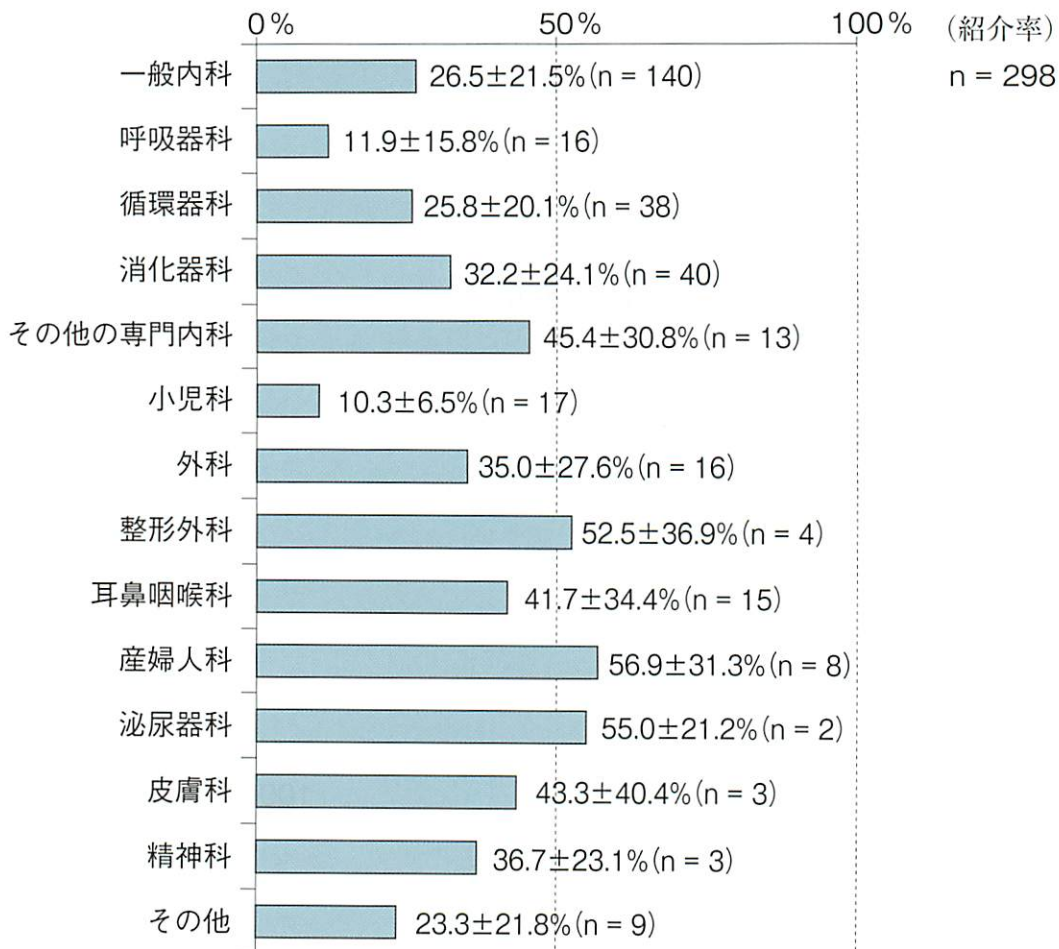


【6】喘息患者に対する他の医療機関への紹介率

(8) 年齢層別 (問9分類)



(9) 診療科別 (問10分類)

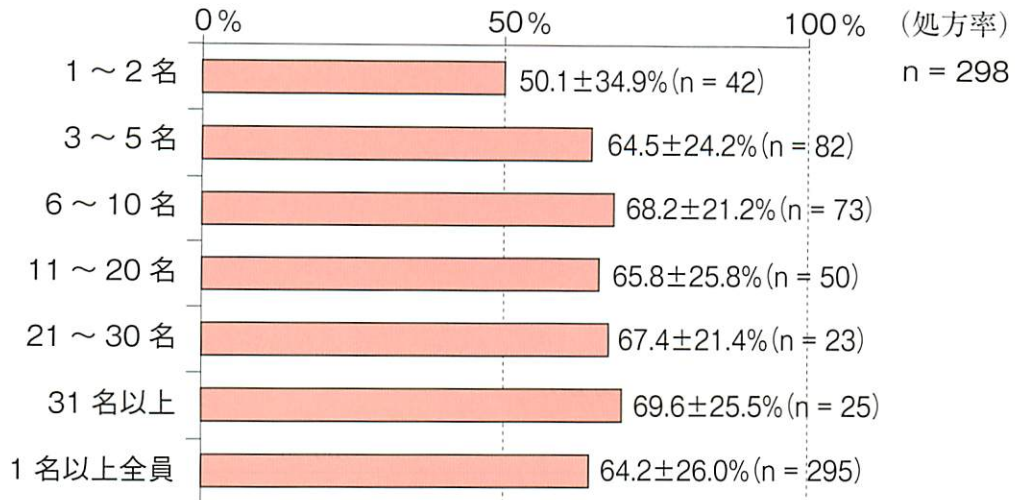


【6】喘息患者に対する他の医療機関への紹介率

【7】先生が外来で治療なさっている喘息患者のうち、何パーセントの方に対して吸入ステロイド薬（合剤を含む）を処方していますか？

（喘息患者の月間来院数1名以上が対象）

(1) 喘息患者の月間来院数別（問1分類）



・月間来院数区分による処方率の違い（6群の比較検定） p = 0.0807 (Kruskal-Wallis test)

・処方率の多重比較検定（各月間来院数区分を対比）(Steel-Dwass test)

（有意差が認められる組み合わせは以下の通り）

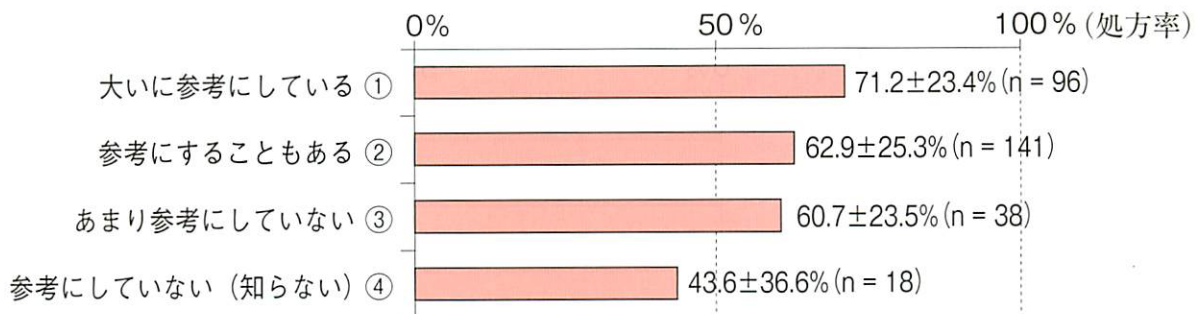
1～2名 vs. 3～5名 p = 0.0386

1～2名 vs. 6～10名 p = 0.0039

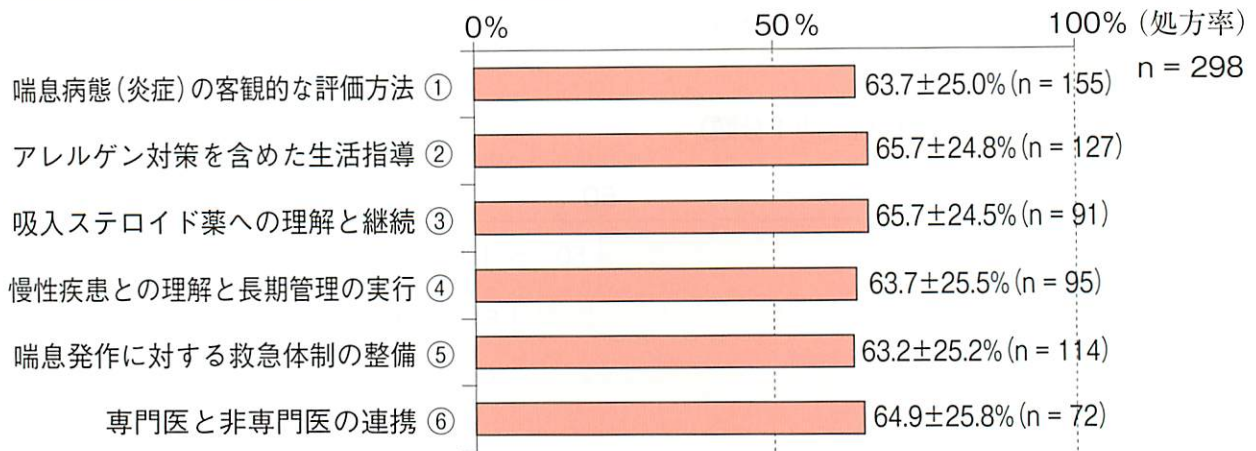
1～2名 vs. 11～20名 p = 0.0413

1～2名 vs. 31名以上 p = 0.0322

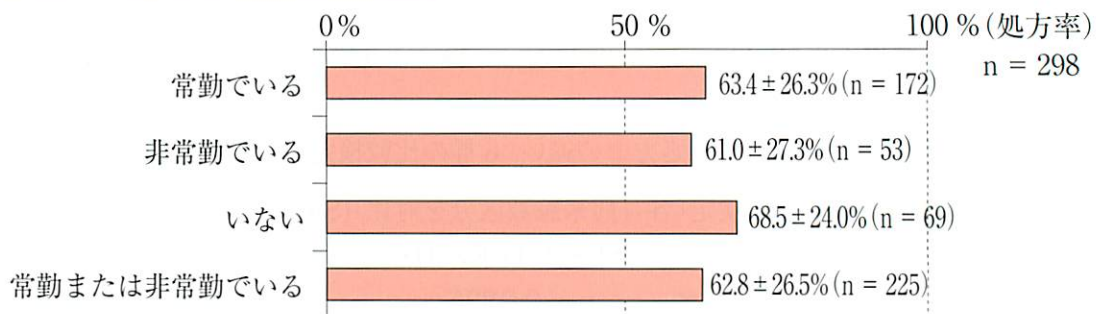
(2) 喘息診療ガイドラインの参照別（問2分類）



(3) 喘息診療の不十分な点別 (問3分類)

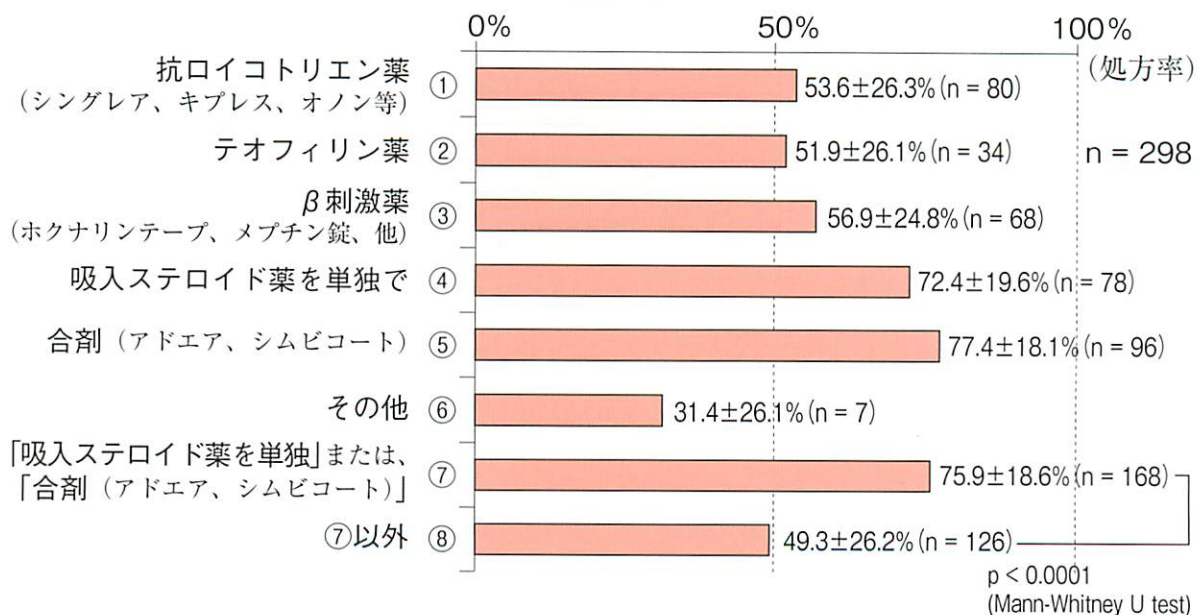


(4) 喘息診療専門医の存在別 (問4分類)



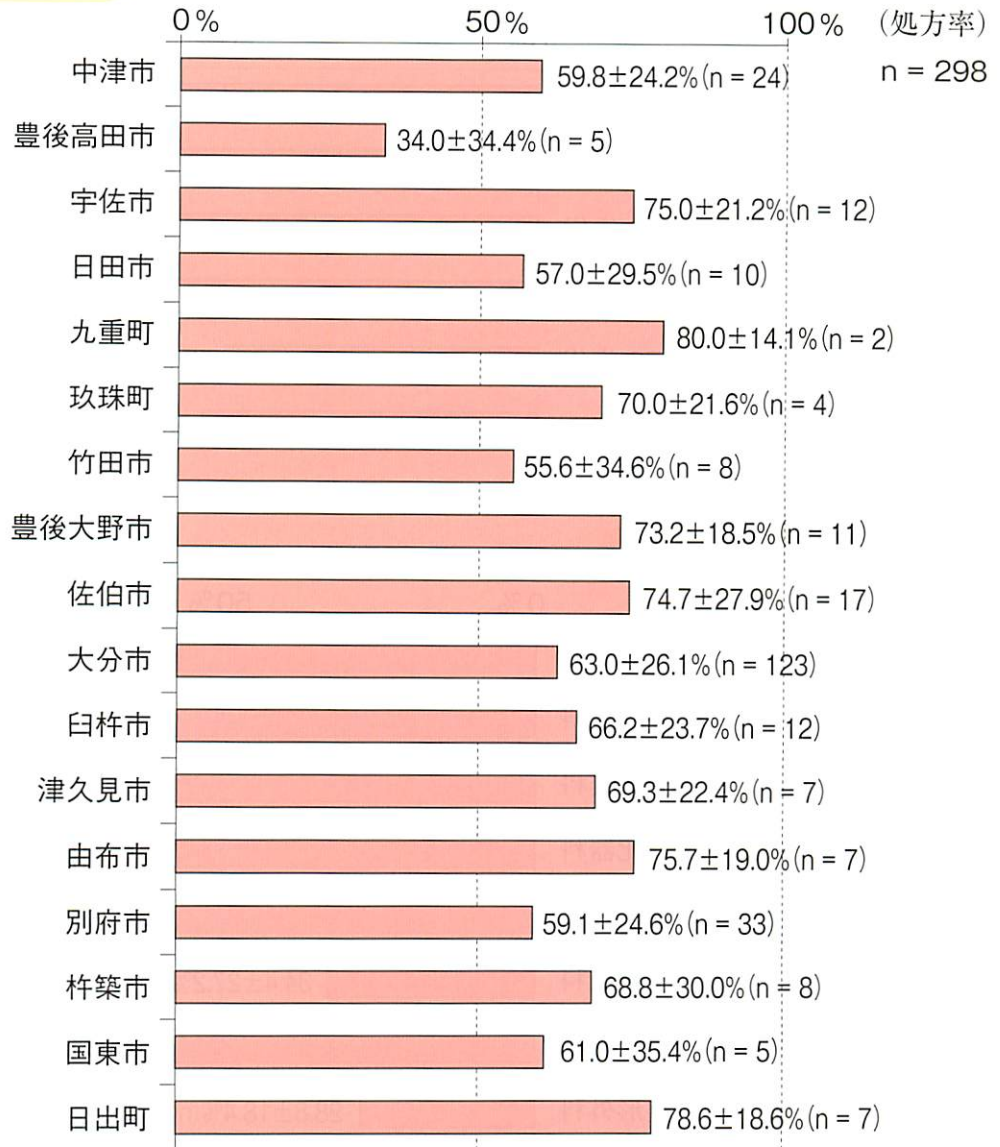
- A. 常勤医または非常勤医である vs. いない p = 0.1411 (Mann-Whitney U test)
- B. 常勤医である vs. 非常勤医である p = 0.6523 (Mann-Whitney U test)
- C. 非常勤医である vs. いない p = 0.1564 (Mann-Whitney U test)

(5) 軽症の喘息患者の第1選択薬別 (問5分類)

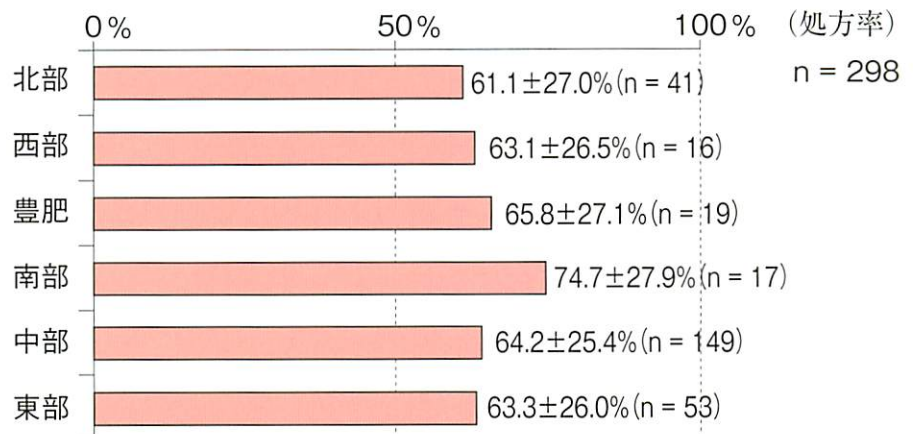


【7】喘息患者に対する吸入ステロイド薬の処方率

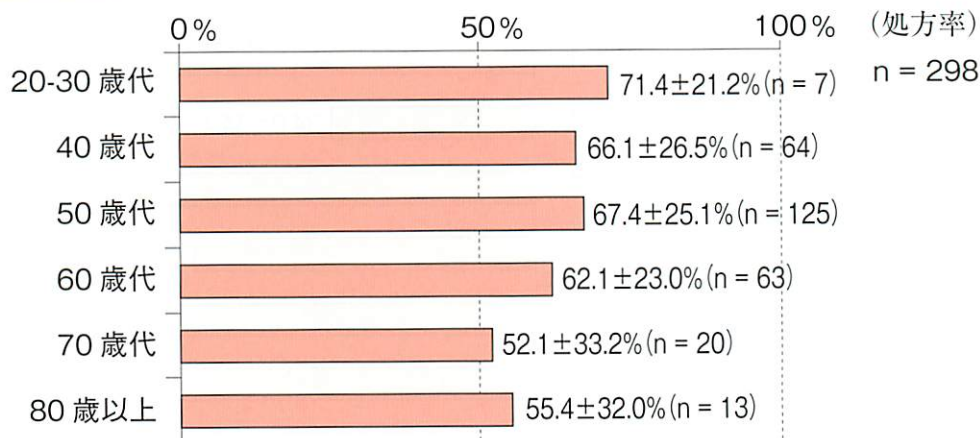
(6) 所在地別 (問8分類)



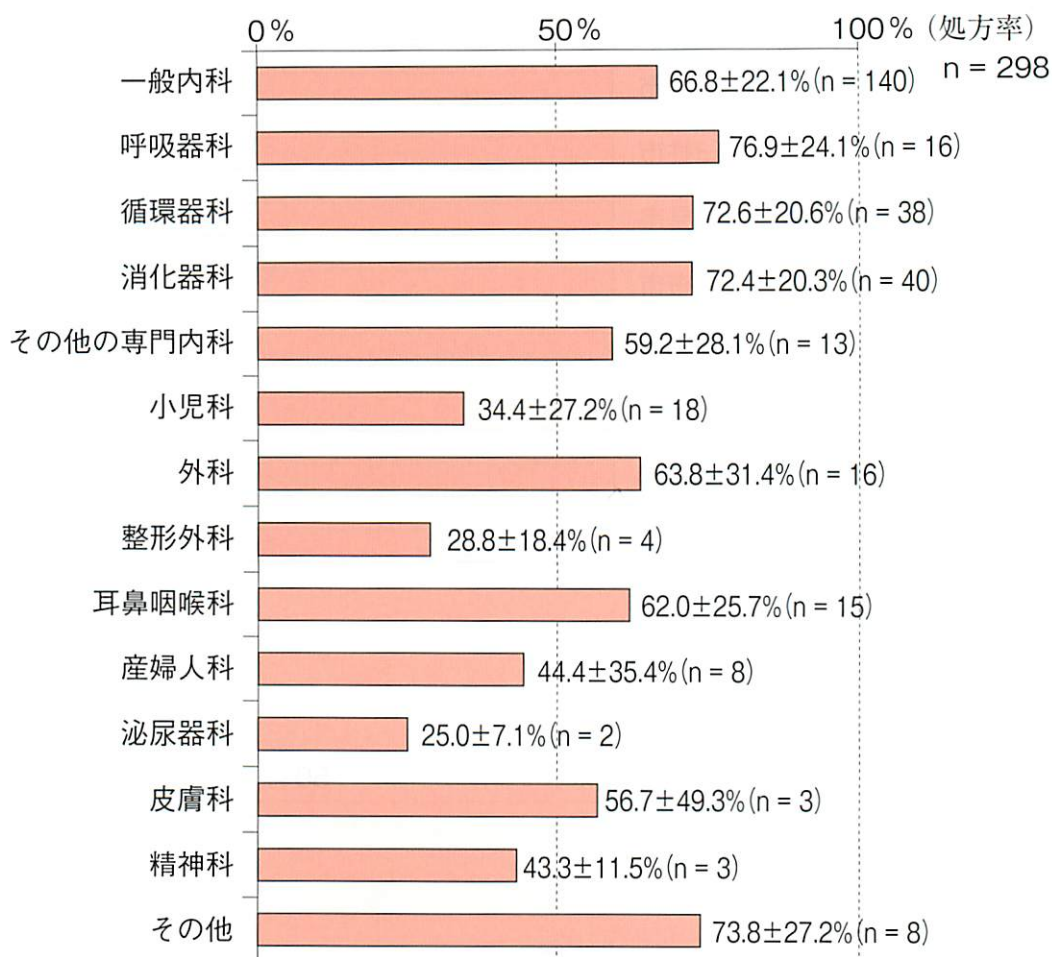
(7) 二次医療圏別



(8) 年齢層別 (問9分類)



(9) 診療科別 (問10分類)



「喘息診療の実態調査」へのご協力をお願いします

以下は選択形式の質問です。該当するものを○で囲んでください。

問1. 先生が貴院で診ておられる喘息患者はひと月あたり何人くらいでしょうか？

- ①0名 ②1～2名 ③3～5名 ④6～10名
⑤11～20名 ⑥21～30名 ⑦31名以上

問2. 喘息治療に関して「喘息診療ガイドライン」を参考になさっていますか？

- ①大いに参考にしている ②参考にすることもある
③あまり参考にしていない ④参考にしていない（知らない）

問3. 貴クリニックで喘息診療を行ううえで、“不十分である”と感じておられることはございますか？ 該当するものに○を付けてください。（複数回答可）

- ①喘息病態（炎症）の客観的な評価方法 ②アレルゲン対策を含めた生活指導
③吸入ステロイド薬への理解と継続 ④慢性疾患との理解と長期管理の実行
⑤喘息発作に対する救急体制の整備 ⑥専門医と非専門医の連携

問4. 貴診療所のある市町村の地域中核病院に、喘息の診断・治療を相談したり、依頼したりできる医師がいますか？

- ①いる（常勤でいる） ②いる（非常勤でいる） ③いない

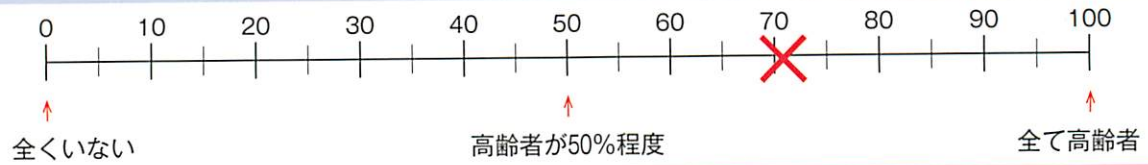
問5. 軽症の喘息患者に対して、第1選択薬として先生がご使用なさっているものをお教えてください。

- ①抗ロイコトリエン薬（シングレア、キプレス、オノン等） ②テオフィリン薬
③β刺激薬（ホクナリンテープ、メブチン錠、他） ④吸入ステロイド薬を単独で
⑤合剤（アドエア、シムビコート） ⑥その他（ ）

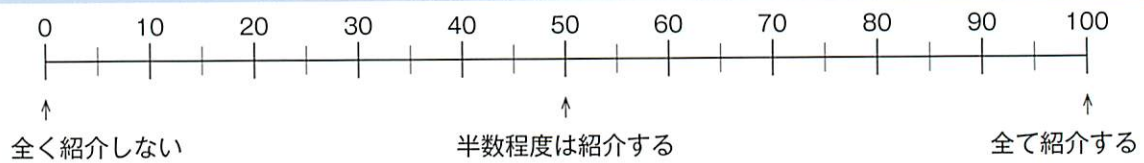
もう1ページ（裏面）、ご協力をお願いします。

以下の質問には（例を参考に）、該当する場所に×を付けてご回答ください。

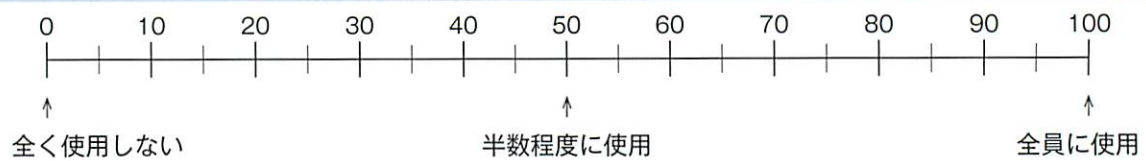
例. 貴クリニック受診患者における高齢者の割合をお教えてください。→ 70%程度の場合



問6. 喘息患者を中核病院など他の医療機関へ紹介することがございますか？



問7. 先生が外来で治療なさっている喘息患者のうち、何パーセントの方に対して吸入ステロイド薬（合剤を含む）をご処方されていますか？



以下は選択形式の質問です。該当するものを○で囲んでください。

問8. 先生のクリニックの所在地をお教えてください。

- ①中津市 ②豊後高田市 ③宇佐市 ④日田市 ⑤九重町 ⑥玖珠町
- ⑦竹田市 ⑧豊後大野市 ⑨佐伯市 ⑩大分市 ⑪臼杵市 ⑫津久見市
- ⑬由布市 ⑭別府市 ⑮杵築市 ⑯国東市 ⑰姫島村 ⑱日出町

問9. 先生の年齢をお教えてください。

- ①20-30歳代 ②40歳代 ③50歳代 ④60歳代 ⑤70歳代 ⑥80歳以上

問10. 貴クリニックでの先生のご専門をお教えてください。（最も該当するもの一つ）

- ①一般内科 ②呼吸器科 ③循環器科 ④消化器科 ⑤その他の専門内科（ ）
- ⑥小児科 ⑦放射線科 ⑧外科 ⑨整形外科 ⑩耳鼻咽喉科
- ⑪産婦人科 ⑫泌尿器科 ⑬皮膚科 ⑭精神科 ⑮その他（ ）

質問は以上でございます。

御協力、誠にありがとうございました。

アンケート用紙は返信用封筒にてご返送いただければ幸いです。

【発行】
平成25年3月

【発行責任者】
大分大学医学部地域医療学センター
教授 宮崎英士
助教 石井稔浩（担当）
大分大学医学部総合内科学第二講座
教授 門田淳一

【問い合わせ先】
大分大学医学部地域医療学センター
住所：〒879-5593
由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
TEL：097-586-6306
FAX：097-586-6307
